

学生による学生のための地域企業情報発信プロジェクト

# WISE

Work-style Information by Student's Eye

# 2018



# ジモト就職に チカラ

# 地元企業の魅力を地元大学生が取材 地元就職情報をWEBと冊子で発信

# WISE Work-style Information by Student's Eye とは?

WISE(ワイズ)は、地元大学生が地元企業を取材し、その魅力を発信する仙台独自のプロジェクト。「Work-style Information by Student's Eye」の頭文字からネーミングしました。始動は2015年秋。毎年多くの大学生が、大手就職情報誌には載らない地元企業を掘り起こし、紹介しています。

## WEB版



## 冊子版



# WISEが 生まれたワケは42%

42% 宮城県内の大学を出た新卒者が、宮城県内の企業に就職した、いわゆる「地元就職率」です。

同じ2014年度の実績で比較すると、同規模の政令指定都市がある広島が54%、新潟は55%。札幌市がある北海道に至っては、なんと66%と大きく水をあけられています。若者たちが首都圏などに流出していくのは地元経済の大きな痛手。震災からの復興も進みません。

そこで誕生したのがWISEです。少しでも多くの人々が「ジモト」の良さを見つめ直すきっかけになればと、仙台市と大学、地元企業などが連携して始めました。

## contents 目次

【特集】地元企業魅力発信 イベント2018開催 .....	2
企業紹介 .....	4
学生紹介 .....	51
索引 .....	62

業種から  
どんな企業があるか  
探すことができます。

# 地元企業魅力発信イベント 2018 開催

10月9日（火）、仙台市青葉区のAER（アエル）5階 仙台市中小企業活性化センター 多目的ホールをメイン会場に「地元企業魅力発信イベント2018」が開催されました。



今回のイベントは、宮城県内中小企業などの情報を早期に発信すると共に、企業と学生の活かな交流の促進と学生の地元への定着を目的に、地域協働教育推進機構、宮城県、仙台市が主催して行われたもので、WISEを運営する、仙台・地域人材

定着推進実行委員会も協力して開催されたものです。

イベントには、これまでWISEに掲載されてきた企業をはじめとする宮城県内の企業や自治体、40ブースが出展。第1部として大学3年生以下の低学年生を対象とした企業研究会、第2

部は来春卒業する学生や既卒生を対象とした企業説明会の2部構成で行われ、約100名の学生が参加しました。

当日は、事前研修を受けた学生が希望する企業のブースを訪問し、企業の代表者や担当者から業界や仕事内容等について説明を受け、学生は主に企



業の現状と将来像、人材育成に関する質疑応答を行い、企業の魅力を探りました。

参加した学生からは、「さまざまな企業を知ることができ、自分の視野が広がった」といった声や「企業の中身はネットだけでは全然分からな

いと思った」、「実際に働いている人との話はとても貴重で、どのような職種に就きたいか参考になった」といった感想が寄せられました。一方参加企業からは、「学生が企業に求めている生の話が聞けるイベントで、企業側も勉強する場となった」といっ

た感想や「働きやすさや育休・産休のことなど会社の制度について聞かれることが多かったため、改めて働く従業員の環境が重要視されていると感じた」、「これから就活を始める学生に対して地元企業のPRが出来た」などの感想がありました。



第2部 事前研修



第1部 企業研究会



第2部の開始を待つ学生たち



第1部 企業説明会

その他サービス業

# ALSOK宮城株式会社

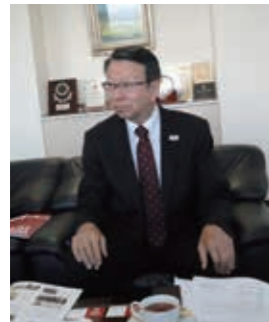
〒981-3206 仙台市泉区明通4丁目16-3 TEL:022-342-5957 FAX:022-342-5960  
URL: http://www.miyagi.alsok.co.jp



- 代表者** 牧村 久夫  
代表取締役社長
- 資本金** 2,000万円
- 創立・設立** 2004年
- 受賞歴** 2005年 ISO (QMS) 認証



## 人を、町を、地域を守るスーパーマンが集う場所。



牧村 久夫  
代表取締役社長

**事業内容**

### 皆さまの安全を守るために

警備業として、ALSOK宮城では主に常駐警備として警備活動をしています。その業務内容は、出入りする業者をチェックしたり、火災の心配がないかを確認しています。また、大学のキャンパス内では、校内の巡回を朝から夜まで行っており、学校の正門に立ち、車の誘導などを行っています。山間地域などにおいて、深刻化する農作物の被害を抑えるため、イノシシやサルなどの鳥獣駆除も行っています。そして、これらのノウハウを他に活かさないかと考え、仙台市地下鉄の東西線9駅の駅員業務を行ったり、仙台空港で火災が発生した場合も、その消防車や消火活動も行っています。それだけでなく、総合管理業務として火災報知器の販売・修理も行い、グループ会社ホーチキでは、報知器も作っていたりと防災用品も手掛けています。

**求める人物像**

### まじめで誠実

求めている人物像はまじめで誠実な人がいいですね。警備の仕事をする以上、不真面目な人だと自分自身を危険に晒すだけではなく、周りにも悪影響を及ぼしてしまいます。さらに、警備している会社からの信頼も失うこととなります。また、警備をする以上、体力がある人が来てくれると嬉しいですね。侵入者だったり害虫駆除をする上でも、体力があれば相手を追いかけたり、向かい合った時に上手く対応できるかもしれませんからね。ALSOKは男性がほとんどですが、女性もいます。女性も男性と同じようにさまざまな場所で警備もしています。弊社は、警備だけではなく、事務作業も行っていますので、男性女性問わず募集しています。経験については特に関係ないので、まじめで誠実、やる気がある人はどんどん求めていきたいと考えています。

**採用情報**

※直近の採用人数

2016年	20名
2017年	19名
2018年	25名



WISE記者の  
企業体験記

## 警備の「基本教練」

私たちは警備の基本である基本教練の一部を実際に教えてもらいました。まずALSOKの警備員から、基本の構えを見せてもらいましたが、全員の動きが、「気をつけ」「右向け右」の掛け声と共に寸分の狂いもなく合っていて迫りもすごかったです。警備員は3人いましたが、一人ひとりの動きが綺麗にシンクロしていたことが印象に残っています。私たちは最初の立ち方を教えてもらい、回れ右をする際にかかとを軸にして回る、両手は真っ直ぐに、手の先をしっかり伸ばすなどの一つひとつの動きが細かいですが、その細かい動きが大事だと実感しました。また、警棒を使った構えや使い方も見せていただきました。実際に警備員が使用している警棒を持たせてもらいましたが、想像していた重さよりずっと軽かったことが記憶に残っています。相手がナイフなどを持って向かってきた場合、警棒を使って対応しなければなりません、実際に警棒で相手を叩くと警棒が曲がってしまうらしいです。人間の身体は硬いということも教えていただきました。実際に警備の仕事をする上で、基本教練が大事だと思いました。基本教練は本当に基本的な動きですが、それができなければ警備の仕事が成り立たないと思います。基本教練ができてこそ、私たちの安全を守ることへと繋がるんだと思いました。



先輩の  
声

### 距離が近いから、働きやすい会社



仁木 忍さん  
総務部

入社するきっかけは父の紹介で、今年度で勤続18年目になります。ALSOK宮城は警備会社ということで、2002年に行われたワールドカップの警備や、国際的な会議の警備を行ったりしています。そこでは、日常ではなかなかできない経験をすることができ、日々勉強の毎日です。仕事をする上で気をつけていることは、ミスをしないようにすることで、一つひとつの仕事に気合いを入れて取り組んでいます。次の日に今日の仕事を残さないことを心掛けています。また、ALSOK宮城は働きやすい職場であると自信を持って言えます。なぜなら、会社が社員の健康管理や働き方の改善を積極的に行っていることにあります。また、社長との距離感が近いので、自分のプランを提案しやすく、意見を直接伝えることができる職場です。自分の意見を伝えることによって会社に貢献できると、達成感も感じられます。また、18年間働き続けられている事こそ、この会社の働きやすさ、環境の良さを体現できていると自負しています。そして、もちろんプライベートも充実しています。休日には妻と小学生になったばかりの娘、小さな息子を連れて家族で出掛けることが今の楽しみです。子育てに動じむことができる環境であることも、この会社の魅力ですね。

記者紹介



東北学院大学3年 秋場 海渡

ALSOKはテレビのCMでもよく目にしていたので取材するのを楽しみにしていました。私は東北学院大学の泉寄舎に2年間いましたが、いつも見回りをしているのがALSOKの警備員さんだったので親近感が湧いていました。取材をしてみると、自分たちが知らなかったことがたくさんあり、地域の人たちとの交流も行っているとのことだったので、信頼を得ることが伝わってきました。とても勉強になりました。



宮城学院女子大学3年 佐々木 真優

ALSOK宮城では、他ではなかなか見られないような警備の訓練の様子や、業界自体を盛り上げていこうとする前向きな姿勢、現状に満足せず常に向上心をもっての心持ちをみせていただきました。そのお話は、一つひとつが刺激的なものであり、就職活動を目前にした私は、社会にはこんなに素晴らしい人がいるのだということに感動を覚えました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

医療、福祉

# 医療法人泉整形外科病院 介護老人保健施設コスモス

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈字長命8 TEL:022-777-3666 FAX:022-777-3670  
URL: http://www.izumiseikei.com/?page\_id=42



**代表者** 根本 忠信  
理事長

**資本金** 2,000万円

**創立・設立** 2004年



## 心に寄り添う介護を目指して



本田 義人  
事務長

**事業内容**

### 一人ひとりと向き合った仕事を

介護老人保健施設は、医学的管理の下、看護・介護及び機能訓練、その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うなどの総合的なケアサービスを提供。それぞれの利用者が有する能力に応じて、自立した日常生活を営むように支援しています。主にリハビリ中心で、日々の食事は栄養管理士が毎日考え、同じメニューでも、個人にあった食べやすい方法と一人ひとりと向き合い考えています。そのほかにも、さまざまな職種が存在し、利用者のリハビリや健康状態を常に心がけ、一日でも早く家族と過ごせるように支援しているそうです。通所リハビリステーションでは、リハビリだけではなく、職員がイベントを一から考え、利用者を楽しんでもらえるようにと考えています。

**採用情報**

※直近の採用人数

2016年	2名
2017年	7名
2018年	5名

**求める人物像**

### 思いやり、向上心、自発性がある人

求める人物像として、三つの事を大事にしています。第一に、思いやりをもって接することができる人です。施設の利用者や家族だけではなく、職場の同僚・介護・看護・リハビリそのほか多くのスタッフと協力し、思いやりの心をもって業務にあたることを大切にしています。二つ目は、向上心がある人です。介護の仕事は無資格、未経験からスタートする人が多くいて、資格のない人は資格取得を目指し、有資格者は最新の情報や技術を習得し、根拠をもって業務にあたっています。常に目標をもって歩み続ける努力が必要で、そのような人材を求めています。三つ目は、自発性がある人です。コスモスでは、より良い介護サービスを提供するために、日々職員同士のコミュニケーションを大切に、自ら行動するようにしています。社会人の基本である挨拶はもちろんのこと「報告」「連絡」「相談」も積極的に行い、人が嫌がることでも進んで取り組むように心がけています。このような積極的に自発性のある人材を求めています。



WISE 記者の  
企業体験記

## 一人ひとりにあったサービスを

施設内を見学させていただきました。施設内は、手すりが廊下や階段、トイレなどあらゆる所に設置されており、手すりの先端は折れ曲がっていて、袖口が引っ掛からない形状になっていました。また、利用者の安全を考えたオートロックになっていたり、誤って押すのを防止するために自動ドアボタンが上の方に設置されていたりと、工夫が施されていました。こういった工夫がいくつもあることによって、過ごしやすい環境に変化していくんだと実感しました。入り口の壁には季節の象徴として桜、ひまわり、もみじ、かまくらなどがプレートに描かれていました。さらに個人の場所が分かりやすいように、花の絵などが部屋番号とセットになっていて、視覚的に覚えられるようになっています。また、同じ食事のメニューでも、むせてしまわないよう味噌汁にとろみをつけるなど、一人ひとりの嚙む力にあわせて食材を刻んだり、ペースト状に調理するそうです。さらに食事を運ぶ際は温冷配膳車と呼ばれる最適な温度で食事を提供できる機械を使用しており、食欲をそそる温かい状態で届けることができます。4階は展望となっておりハビリや休憩ができる場所となっています。庭園にある畑ではさつまいもや里芋を栽培していて、スイートポテトや秋に芋煮をする際に食べるそうです。最後に、施設内のレストランで定食をいただきました。曜日ごとのメニューが決まっていますが、栄養バランスの考えられたヘルシーな食事をいただく事ができます。自分の日頃の食生活を振り返る良い経験となりました。



先輩の  
声

### 気持ちを読み取ることを大切に



齋藤 結梨さん  
介護福祉士 秋ユニット  
サブリーダー

私が介護の道に進もうと思ったきっかけは、幼いころに祖母が自分の母親を介護するといういわゆる老老介護を見てきたからです。若い人が介護をするのも大変なのに、体の自由の利かない祖母が介護している大変そうな姿を見て、何もできなかった自分がとても歯がゆかったです。それから介護の道に進もうと思い高校、専門学校で介護の勉強をしました。学校を卒業し入社しましたが実際に入社する前と後ではかなり印象が異なりました。学校では実習も行いましたが利用者の表面しか見れておらず、入社してからは徐々に内側も見えてきて、隅々までちゃんと見なくてはいけないことが分かりました。先輩の職員から家族や入所する前のことなど、ある程度の情報は与えられますが、やはりそれだけでは内側を見ることが出来ないで、ちゃんとコミュニケーションをとることがとても大事ですね。中には言語障害などで直接会話することが難しい方もいます。しかし誰でも何かしらのサインは出しています。そのため、人生の先輩として尊重しながら一人ひとり何が言いたいのか、何を考えているのか読み取るように心がけています。読み取ることがなかなか難しいですが利用者「ありがとう」「あなたがいてくれてよかった」と言ってもらえることが、とても嬉しくやりがいを感じています。



宮城学院女子大学2年 遠藤 陽香

食べ物を飲み込みやすくするためにご飯にとろみをつけたり、歩行の負担を軽くするために立ち上がりの練習をしたりと日常生活のサポートすることで自宅への復帰を目指していることが分かりました。また様々な年間行事を行ったりと身体的な負担を軽減するためのサービスはもちろん利用者さんに楽しんでもらうためのサービスも充実しておりいつも利用者さんのために何をしてあげられるかを考えているのだなと感じました。



宮城学院女子大学1年 太田 杏梨

普段目にする事ができるバリアフリーが施設には多く設備されており、一つひとつの工夫が体の負担の軽減に繋がっていることに感動しました。トイレの広さや手すりの位置など、意味を知らなければ知るほど興味深くなり、他にはどんなものがあるのか、もっと目を向けていきたいと思っています。また、本田さんが従業員の紹介を詳しく説明する姿や、利用者「ありがとう」笑顔で声をかけている姿を見て、思いやる気持ちの大切さを強く感じた取材でした。



東北工業大学2年 鵜田 楓由稀

コスモスさん取材して、本人事務長の話されていた「利用者の方々が1日でも早く住み慣れた家庭へ復帰できるように支援する」、「毎日の辛いリハビリだけではなく、イベントを通して楽しんでもらい、共に楽しみ共に頑張っていく」という思いが伝わってきました。本人事務長が、自分の仕事に誇りとプライドを持つことで、成長していけると語っていたので、自分も残りの学生生活を頑張りたいと思いました。

記者紹介

製造業

# 株式会社 岩沼精工

〒989-2421 岩沼市下野郷字大松原 305-3 TEL:0223-29-2121 FAX:0223-29-2122  
URL: <http://www.iwanuma-seiko.jp>



- 代表者** 千葉 厚治  
代表取締役社長
- 資本金** 1,000万円
- 創立・設立** 1974年
- 受賞歴** 2004年 ISO9001  
2007年 ISO14001  
2017年 圧着端子の製造方法及び圧着端子特許取得  
2018年 ケーブルクリップ特許取得

WISE 記者の  
企業体験記

## 機械と向き合い自分と向き合う

私たちは工場全体を見学させていただきました。工場には、試作から量産までを担うたくさんの機械が並べてありました。加工する材料となる金属には重みがあり、工場内のどの図形にもお客様の求める形にするための数字が細かく入っています。出来上がった製品がどれも図面通り複雑な形状をしていて、どうすれば硬い金属の塊の状態からこのような形が生まれるのかとても不思議でした。金属に対して1/1,000という、髪の毛の太さである3/100mmとも比べ物にならない単位の加工を可能とする岩沼精工だからこそ、機械に向き合う人たちは慎重に集中して作業をしていました。

私たちが見学をしていた最中に、作業をしていた方が隣で作業していた方に作業の相談をしているところを見かけました。実際に工場働いている方にお話を伺った際に、「ここで働く人は20歳から60歳と幅広いです。しかし年齢の差に関係なく信頼関係があり、分からないことなど相談できる環境が整っている」そうで、同じ会社で働く者として良い関係性が築かれていることを実感しました。

取材していた中でも働く者どうしの助け合いという点で、「質問された人は6割だけ教えて、質問した人自身に考えさせる部分を残す教え方をしてくれます」と話してくれました。教えるということが課題解決としてだけでなく、その人自身の成長のためにもなる配慮がなされていました。社員一人ひとりの、日々試行錯誤を繰り返しているひたむきな姿勢が、岩沼精工に対する信頼の高さにつながっていると感じました。

## 試作から量産まで、お客様に徹底的に寄り添いご提案



千葉 厚治  
代表取締役社長

事業内容

### どんな金属にも対応ができる！

岩沼精工の事業内容は金属のプレス加工、機械加工、板金加工など、金属に関する加工を行うことです。加工に関するに加え、営業や事務を行います。主な取引相手としては大手有名企業などに加工した製品を取引しています。試作から生産までの一貫生産を行うため、取引する相手企業との信頼関係が厚くなり、試作段階で不安要素をなくし、安心して量産することが可能です。基本的にどんなものの加工も受け付けており、難削材と言われる非常に加工が難しい製品の加工も受け付けています。お客様に高い品質を前提にしたコスト削減を提案することで、安価制作のための提案が実現しています。従来、削りと量産の窓口を分けていましたがそれだと削りもしたいが量産もしたいという願いに窓口が分けられていると混乱を招く場合があるので、窓口を一本化することでお客様にとって分かりやすくなりました。

求める人物像

### 折れない心を持ち向上心がある人

必要としている人材は、粘り強く負けん気があり、折れない心を持ち、自分から周りに学びに行くという向上心がある人です。今までは工業系の高校、大学を中心に求人を行っていましたが、最近では普通科の学生や、工業以外の大学生も対象に求人を行っています。工業系の学生は工業が好きで人が多く、基本的な知識が身につけているため、仕事にすぐ貢献できる人が多いです。普通科の学生や工業以外の大学生は、一から教える必要がありますが、新人育成はマンツーマンでの対応を2か月程度にわたり行うので、専門的な知識がなくても大丈夫です。今は専門的な知識がないからこそ、好奇心を持って粘り強くできる人が多くなってきていて、就職を希望する人が多くなってきています。さらに女性社員の数も段々と増えてきており、女性社員ならではの器用さでうまく仕事をこなしている人もおり、社員55人中20人が女性です。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	0名
2018年	0名



先輩の  
声

### 部品が完成したときの喜びが、仕事のやりがいです



東海林 大輔さん

マシニングセンターで、金属を加工する機械のオペレーターをしています。刃物をセットしたり、加工する順番をプログラムしたりするのがオペレーターの役目です、岩沼精工には機械が4つあり、その全てのプログラミングを担当しています。製造業に携わっていると、毎日が挑戦の連続です。お客様から頂く設計図は複雑で初めて見るものばかりだからです。「こんなの無理だ」と思うこともしばしばで、1つの部品を完成させるのに数日を要するときもあります。それでも、自分が持っている知識と経験をフル活用して、部品が完成したときには達成感と自信を得ることができますし、「この仕事をやって良かった」と思えます。「もっと速く・上手に作れるようになりたい」という向上心を抱いて、日々仕事に励んでいます。今は三次元加工のプログラミングをマスターすることを目標としています。岩沼精工ではできる人が1人しかいない、新しいプログラミングです。製造業は日々進化しているので、自分のスキルも進化させなければいけません。自分にしかできない仕事を増やして、会社に貢献したいと思っています。

記者紹介



東北大学3年 菅野 雄哉

私は、社長と社員の仕事に対する思いが一致していることに感動しました。千葉社長と私がお話を伺った東海林さんは、仕事において「難しい仕事でも簡単に諦めてはいけぬ」と仰っていました。難しさを理由に仕事を断ってしまうと、会社にとっては利益を上げるチャンスを失うし、社員にとっては経験を積むチャンスを失ってしまうためです。私も、簡単に諦めない粘り強さを身につけなければと思いました。



東北工業大学2年 鈴木 果也

今回、岩沼精工に取材をさせていただき貴重な体験となりました。私自身、企業に赴き、取材することは初めてでとても緊張しました。千葉社長には、取材を受けていただき感謝しております。千葉社長が直々に会社の工場内を案内していただき普段見れない場所まで見学でき、とても良い体験になりました。この度はありがとうございました。



宮城学院女子大学1年 熊谷 未来

「傷がついていても製品と言えるが、『お客様が求める製品の完璧な形』は図面上にしかない。その完璧な形をどの位再現できるか、日々探求する工場の方々の姿勢が素晴らしいと思いました。ただ生産者としてではなく、同じ志を持つ者としての集団意識の高さを感じました。社員の手の器用さを生かして生産したコマで大会に出場し上位を取るなど、会社全体で特色を生かした幅広い活動も見られ、会社としての魅力も感じました。

卸売業、小売業

# 株式会社 植松商会

〒984-0015 仙台市若林区3-7-5 TEL:022-232-5171 FAX:022-232-5175  
URL: http://www.uem-net.co.jp



**代表者** 植松 誠一郎  
代表取締役社長

**資本金** 10億1,755万円

**創立・設立** 1955年

**受賞歴** ISO14001:2015  
初回認定日  
2006年2月17日  
「認証番号 4004284」

WISE 記者の  
企業体験記

## 植松商会会社見学

植松商会の社屋を見学させていただきました。見学させていただく中で、仕事効率を上げる工夫点を社内と倉庫で知ることができました。まず、社内の工夫点は部署の配置です。部署は、総務部と営業推進部の2つに分かれていました。受付から近い位置に総務部があり、13の支店を繋ぐシステムが備わっているサーバールームに近い位置に営業推進課が位置しています。こうすることで、総務部は顧客対応が、営業推進部はシステムの管理がすぐに行えます。次に、倉庫での工夫点は、倉庫の高さと製品の配置です。倉庫の高さは、トラックの荷台の高さと同じ高さにあります。こうすることによって、すぐに商品をトラックに積み込むことができます。朝10時には倉庫にトラックが来て、顧客の元へ出荷するため、素早く製品を積み込む必要があります。また、その出荷される製品は出荷数が多い順に、トラックが止まる場所に近いところに配置されていました。さらに、倉庫の近くには資料管理室があり、すぐに運送業者への対応製品の管理ができるようになっていました。見学の際には、外観の説明もいただきました。入口には、「植松商会の『植松』」という名前から自然をイメージして作られたピラミッド型のオブジェが二つ、個性的な木の椅子が二つ、盛り上がった山の上に芝生がありました。また、社屋の側面には課対抗で行った緑化活動の一環として植えた植物がありました。顧客との関係や社員同士の関係も重視していることが分かりました。



## 地域に密着してモノづくりを支える



植松 誠一郎  
代表取締役社長

事業内容

### モノづくり界の縁の下の力持ち

植松商会ではお客様であるモノづくり企業に機械・工具を提供しています。お客様のさまざまなご要望に対してモノを供給するだけでなく、情報やそれぞれに最適な解決法を提供・提案することもあります。「顧客最優先主義」を貫いてきたことで築いたお客様からの熱い信用と信頼により、現在植松商会は約900社のモノづくり企業を顧客として抱えています。そのお客様と日々接し、ニーズに合わせて購買代行や情報の提供、関係機関の調整・斡旋、時には技術的アドバイスをすることでお客様の負担を軽減するという役割を果たしています。くっつけることを東北弁で「ねっばす」といいますが、植松商会はねっばす人「ねっばサー」です。植松商会とお客様が「ねっばり」、お客様同士を「ねっばす」。このネットワーク構築は植松商会独特なかもしれません。「僕らがいないと日本のモノづくりは成り立たない」と植松社長は胸を張ります。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	4名
2017年	5名
2018年	2名

求める人物像

### 素直で好奇心あふれる人、情熱をもって挑戦ができる人

素直さと好奇心、そして向上心をもった人を募集しています。確かにスキルを持っていることも大切なのですが、私たちの会社はお客様との信頼関係があることで成立する仕事ですので、信頼・信用をしてもらうことがとても大切になります。では、信頼関係はどうやって築けると思いますか。それは嘘をつかないこと、つまり素直さです。素直さというのは、人の話に耳を傾けてそれを理解すること、そして相手を思いやるということです。「先入観は罪、固定観念は悪」という言葉を、楽天イーグルス元監督の野村克也さんが言ったそうです。先入観や固定観念を持つことは自分の世界を狭めてしまいます。自分自身の殻を破り、新しいことに挑戦することは不安を生みます。社会に出ると自分の思い通りにならず、毎日が不安でいっぱいになるでしょう。しかしその不安一つひとつを克服することで、自己を成長させることができるのです。限られた人生の中で、やりたいことをどんどん見つけて挑戦する人にかっこいいと思います。植松商会は、社員にやりたいことがあれば全力で応援します。



先輩の  
声

### 風通しのいい会社



我妻 志穂さん  
管理部 総務課

営業職として採用されましたが、今は、本社で総務職として労務管理や給与管理、新卒採用活動などを行っています。学生時代は「誰かの相談役になりたい」という思いで企業探しをしてきました。しかし、合同企業説明会で営業職でも相談役になれるのではないかと気付いた時に、常務からお声掛けを頂いたこともあり、入社を決めました。今行っている業務内容に、新卒採用があります。今まで行ってこなかったインターンシップを企画から全て任せられました。初めは、上司が納得する企画書を作ることができなくて、泣きそうになる時もありましたが、企画書が上司に通って、莫大な予算がすぐについたときは、会社の風通しの良さなどを改めて感じました。実際にこの企画では、営業職に対する怖いイメージを払拭させるというテーマを設け、私自身が持っていた「怖いイメージ」をどのように払拭させるかが一番の山場でした。そこで、地元取引企業の社長と対談をするという企画を立て、実際に取引している企業が、植松商会の本質を語るだけでなく、地元企業の温かさを知ることができるインターンシップを目指して行ってきました。今後も、植松商会を知ってもらえるような企画をたくさんできるようにしていきたいです。

記者紹介



宮城大学3年 澤田 苑佳

取材を通して、お客様に寄り添う姿勢や仕事効率を高める工夫をしていることが分かりました。私は社長の一人ひとりの幸福感を高めたいという思いや、植松商会の求める人物像のお話に感動しました。社員の方の人柄も良く、社員同士の風通しの良さも感じられ素敵だと思いました。貴重な体験をさせていただきました。お忙しい中、お時間とっていただきありがとうございました。



東北工業大学3年 萩野 暁

私は「ねっばす」という仙台弁をこの取材で初めて知りました。地元企業に対して一方的な仕事をするのではなく、顧客一人ひとりに対してのアフターケアに至るまでしっかりと行き水平関係の仕事を行うことで、地域の会社と会社を繋ぐ架け橋のような企業だと知りました。また、卸売を専門としている会社で株式上場をしていることなど、安定した経営にも力を注いでいるのだと実感しました。



東北学院大学2年 奥村 朱子

モノづくり産業のこれからについて社長は「厳しくなっていくだろう」とお話しになりました。これからロボットやITの技術が優れていく中で「インターネットにできなくて人間にできることが何か」を考えることが必要とおっしゃっていたことを覚えています。これは私も共感できていたところだったので、さらに社長の「これ考えることが自分たちを成長させる」という言葉に熱い思いを感じました。

情報通信業

# 株式会社 エヌエスシー

〒980-0803 仙台市青葉区国分町1-6-9 マニユライフプレイス仙台8階 TEL:022-221-9101 FAX:022-221-9102  
URL: <https://www.nsc-inc.co.jp>



**代表者** 高谷 奈津夫  
代表取締役社長

**資本金** 8,550万円

**創立・設立** 1997年

**受賞歴** ISO JIS Q  
27001:2014(ISO/IEC  
27001:2013) 2011年

## 常に成長し続ける会社



高谷 将宏  
執行役員 企画室長

### 事業内容

#### 幅広い業務とハイクオリティ

エヌエスシーが行っている、サーバーの構築・運用保守は、例えばWi-Fiを正常に保つことが挙げられます。また、医薬分野の統計解析業務を行っています。他にもソリューション販売など、さまざまな業務を行っています。中心業務はお客様独自の情報システムの提案・開発です。また、パソコンやサーバーの販売・対応も行っています。お客様からの依頼でシステムの開発などを行う派遣型でも仕事をしています。エヌエスシーに依頼するお客様は「こんな感じのシステム開発をしたいけど分からない」といったように、最初から困っている状態の方もいらっしゃいます。ただシステム開発の手助けをするだけではなく、100%ではなく120%で応えるようにしているそうです。つまり、IT先端技術の導入に取り組み、お客様からいただく要望への改善提案がとて大切になります。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	4名
2017年	4名
2018年	4名

### 求める人物像

#### コミュニケーションと先を見据える力

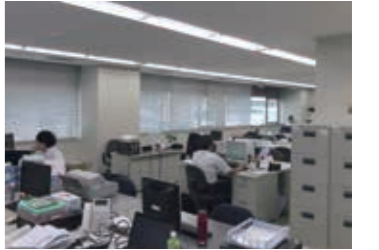
エヌエスシーが求める人材は、コミュニケーションがしっかりとりとれる人です。具体的には、雑談などを1時間でできる人です。次に順序立てて物事を考えられる人です。この二つの力があれば、プログラミングなどのスキルは、興味があれば未経験者でも伸びる可能性は十分あります。コミュニケーションが必要になってくる場面では、最初は、お客様との信頼関係が出来上がるまでに徐々にお客様と仲良くなる必要があります。そのために話をすること、話が聞けることが必要になります。5年後や10年後にお客様の会社はどうなっているか、なども聞かなければなりません。その時に「社会はこうなっていると思うので今、このようなことをやっていたら良いではないのか」、ということを提案することが大切になります。現在のみを解決するのではなく、現在と未来も使っていける技術の提案ができなければならないため、先を見据える力が必要です。



### WISE記者の 企業体験記

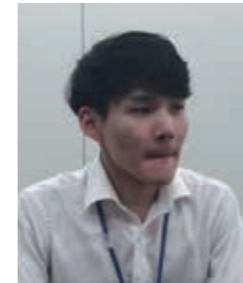
## お客様の困りごとに対応

社内の仕事の内容を見学させていただきました。会社内でのプログラミングやシステム開発がメインとなっています。企業や大学向けサーバーでは、ネットワークなどの通信基盤の保守や構築も行っていました。朝礼では、毎朝スタッフがローテーションで、今日あった出来事や、世の中のトピックスをスピーチしています。営業の方は、話すのが上手なのですが、開発担当の方には、話すのが苦手な方もいますのでスピーチの練習として行っています。仕事場の雰囲気は、とても静かでキーボードを叩く音が響いていました。時間の都合で体験はできませんでしたが、エヌエスシーでは、毎日15時になるとラジオ体操でリフレッシュ活動を行います。システム開発の方たちは常に椅子に座っていることが多いので、意図的に体を動かすことを目的に行われています。ラジオ体操が終わってから10分ほど瞑想をする時間あり、その10分間の間に、フィリング音楽を流して気分転換をしています。また、ホームページに書かれている「面白い会社」という説明で「面白い」=「楽しい」ということではなく、面が白くなるという意味で新しい発見や気づかなかった事が分かったり感心するような事こそが面白いという説明を受け、そのような意味があるのだと思いました。



### 先輩の 声

#### 学生と社会人の違いを感じる毎日です



三浦 大輝さん  
システム開発部

私は元々もの作りに興味があり、もの作りで地域や会社に対して、貢献したいと考えていました。そのため、自分の作ったシステムという「もの」が、誰かのためになることが一番のやりがいであり、この仕事の魅力であると思っています。入社して半年経ちますが、大学生の頃と比べると、時間についての考え方が大きく変わりましたね。学生の頃は、時間割を決めることができたように、ある程度、自分が自由にスケジュールを設定することができました。しかし、社会人になった今では、始業時間と終業時間が決まっているなかで仕事を終わらせなければならないので、時間の制約ができてしまったと感じています。社会人として生活するなかで、自分の時間を確保しつつ、いかに生産性を上げるかということにすごく意識するようになりました。そのため、仕事の疲れを、どれだけ休日にリフレッシュができるかも、社会人として必要なスキルではないかと思っています。大学生の皆さんには、今のうちから効率的に時間を使うことを意識して生活することをおすすめします。

### 記者紹介



東北工業大学2年 小原 洲斗

IT企業なのでプログラミングが、主な仕事なのだと思っていましたが、実際にどのような仕事をしているか気になっていました。このように取材を行い、仕事の内容などが知れて自分自身にとって新しい発見があり、とても有意義な体験ができてよかったです。今回の取材を通して、人と人の信頼関係をつなぐのはコミュニケーションが大切なのだと思感し、とても勉強になりました。



東北学院大学3年 吉川 敏樹

初めての取材でわからないことばかりでしたが、取材の楽しさを感じました。普段の生活では聞けないような話を聞いたのが楽しさを感じるひとつでした。元は金融関係のお客様が多かったが取引相手が広がった話や、20年前はシステム系の需要が多かったことが創立につながっていることなど経営についての話も多く、就職後にも活きる話を聞けました。



東北学院大学3年 工藤 弘貴

「面白い会社」とは、どのような会社なのだろうと気になったので、質問してみました。面白いには、新しい発見、気づきを楽しむという意味もあり、お客様が今まで気づかなかった業務の解決策を提示して、驚いてもらうことを楽しむのが「面白い会社」であるとお話ししてくれました。あっと驚くような新しい発見を楽しんでいるからこそ、お客様に満足していただけるサービスができるのではないかと思います。



卸売業、小売業

# 株式会社 エルピダあおば

〒981-3304 富谷市ひより台2-2-2 TEL:022-358-7740 FAX:022-358-7430  
URL: http://www.elupidaaoba.co.jp/



**代表者** 阿部 伸一郎  
代表取締役社長

**資本金** 5,000万円

**創立・設立** 1948年 青葉商工株式会社として創立  
2003年 株式会社エルピダあおば設立年

**受賞歴** 優秀安全運転事業所  
優良申告法人表彰  
宮城県レンタカー協会表彰



## 卓越した対応力と受け継がれてきた技術力



阿部 伸一郎  
代表取締役社長

### 事業内容

#### 安心と安全

エルピダあおばは、建設機械のレンタルを行いながら東北の建設業に携わっており、建設機械における卓越した対応力で、お客様の喜びと未来のまちづくりに貢献することを目標としています。

機械のレンタルは、東北に限らず日本全国に行っており、長年エルピダあおばを利用しているお客様に高く評価されている要素が、迅速な機械手配や対応力です。また、長期で出庫している機械などについては定期的に点検を行っているため、お客様が安心して長期間レンタルできるようにサポートも行っていきます。

こうした仕組みをベースに、お客様が安心して機械を利用する細やかな作業を行っていることも、会社の評価を高める要因となっています。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	4名
2017年	6名
2018年	1名

### 求める人物像

#### 素直に受け止め、成長する仲間

私たちは素直な仲間を求めています。お客様の感謝の言葉に喜びを感じたり、アドバイスや意見を素直に受け止められたりできる素直さは、自分を成長させてくれると考えるからです。時には与えられた仕事が多いこともあります。そんな時にも諦めずに、「やってみよう」と前向きにとらえられる積極性も大切です。素直に喜びを感じ、受け止め、経験を吸収しようとする「素直」で「学ぼうとする」体質であることが求められます。

また、私たちは協調性も大切にしています。エルピダ青葉では、工場を専門としているサービス職、営業職、営業事務職と主に3つの分野で仕事を行っています。営業のおかげでお客様から注文が入り、事務職がお金を管理し、サービス職の社員がレンタル機材のメンテナンスをするというように、3つの部署の協力プレーのおかげで仕事が成立しています。だからこそ、従業員の誰かがお客様から感謝の言葉をいただいたら、全員で喜ぶことを心掛けています。このような、素直で協調性のある仲間ぜひ入社してほしいと思います。



### WISE記者の 企業体験記

## エルピダあおばが選ばれる理由

社内には朝礼室が設けられ、そこには社訓、誓いが貼ってあります。一人ひとりの意気込みを社員で合わせ、一丸となって事業に取り組んでいるのだと実感しました。また、毎朝環境整備が行われ、それを通じて感謝の心を作り、活力のある場をお客様に提供することを望んでいるそうです。さらには社会への貢献にも取り組んでいるようで、時代の流れとともに改良されていく多種多様な建設機械を取り扱い、機械の整備力を高めたり、機械そのもののパフォーマンスを高めるために、メンテナンスを怠ることなく安全かつ動作良好な機械の提供に力を入れているそうです。私たちが多くの機械を見せてもらいましたが、社員よりもずっと多くの種類や数がある中で、一つ一つ丁寧な点検をされていました。この対応力が会社の支えであり強みになっているとのことでした。対応力というのはいち早く各現場に合わせたサポートやサービスを目指すこと、お客様の声を取り入れる、社内で共有し解決に進むということだそうです。実際に重機にも乗せていただいたのですが、車内はとて綺麗で、そこから見る景色は私たちにとても新鮮で目新しいものでした。創業70年を迎えるエルピダあおばですが、さまざまな経験があって、現在のエルピダあおばが作られているのだと思いました。



### 先輩の 声

#### まちづくり、モノづくりに関われる魅力



大場 将世さん  
富谷営業所 所長

最初は営業職よりもモノづくりに関わりたいと考えていました。しかし文系出身を受け入れてくれるところはなかなか見つかりませんでした。そんな時、さまざまなサイトを見ていてエルピダ青葉を見つけました。レンタルした機械でまちやモノを造っていく仕事に、間接的でもまちづくりやモノづくりに関わることができるということに魅力を感じたことが入社へのきっかけです。

入社した当初は機械の知識がなく、問い合わせの電話や現場で質問をされるととても大変で、機械の知識を積み重ねていくのに時間がかかりました。営業に出たときも、お客様が忙しい時間帯だと話を聞いてもらえないこともあり、最初はくじけそうになることが多々ありました。しかし、諦めずに努力し続けて、初めて新規でお客様から注文をいただいたときは本当に嬉しかったです。これからは、仕事に質を求めていきたいと思っています。去年は所長になりたてでしたが、2年目になり少し余裕が出てきました。部下にももっとさまざまなことを教えていきたいですし、建築関連以外の新しいことにチャレンジして自分自身も成長していきたいです。

### 記者紹介



東北学院大学3年 佐藤 光

今回、エルピダ青葉取材して、社内での取り組みが印象に残りました。3年に1度は社員旅行で海外に行くそうです。社員旅行を通して、若者に世界を見せるためです。約70億人がいる地球で日本以外の文化を体感することにより、学んでほしいからだそうです。私自身も生きていく上で学ばなければならない知識は沢山ありますが、残り1年弱の学生生活を有意義なものにし、来年の就職活動に向けて、頑張っていきたいと思いました。



宮城学院女子大学3年 桜庭 沙友里

建築機材をレンタルしている会社があることを初めて知りました。実際に重機に乗せていただいたり、工場内を見学させていただいたのは、とても良い経験になりました。間接的ではあるけれども、まちづくりができるというところに魅力を感じる仕事だと思いました。結婚後や出産後も仕事に復帰されている方がいたり、従業員の家族まで大切にしたりするところからも、社内の雰囲気の良いと感じることができました。



東北工業大学2年 中村 凧音

今回の取材で、企業における社会貢献の重要性やまちづくりに対しての関心が高まりました。また、お客様から選んでいただける対象となるための努力を日頃から行うことの大切さを知りました。取材にも快く応じてくれる方々で、時間が過ぎるのがあっという間でした。実際に現地に向いてお話を聞くことで、自分の胸に響くものが多く、貴重な経験となりました。私も将来人の役に立つ職に就きたいと強く感じました。

情報通信業

# 株式会社グッドツリー

〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 泉中央ビル4F TEL:022-341-6380 FAX:022-341-6381  
URL: http://GoodTree.JP/



**代表者** 西原 翼  
代表取締役

**資本金** 4,000万円

**創立・設立** 2005年

**受賞歴** 2012年 みやぎ認定IT商品  
2013年 起業家育成事業認定  
2018年 仙台「四方よし」企業大賞 優秀賞

## 「ケア樹」で介護の手助けを



西原 翼  
代表取締役

### 事業内容

#### 良い樹を創るために

介護ソフトを作り、販売・運用をしてサポートしています。施設に向き契約する営業部、パートナーと組み仕事を行うアライнс部、ソフトの開発を行う開発部、お客様をサポートするサポート部、他の部署をサポートする総務部と、さまざまな役割を担う部署があります。サポート部は毎月1日～10日に請求関係で繁忙期となっています。

経営理念の「良い樹を創る」にある「良い樹」というのは、やるならNo.1をとり、一番多くのお客様に信頼され、さらに継続的にお客様を増やすプロセスを確立していくこと。という意味が込められてるそうです。これができなければ、人に依存するビジネスとなってしまいます。つまり、その人が倒れたら何もできなくなってしまうため、こうした理念は大事にしていきたいそうです。ただ、なんでもやってしまうのも逆効果。まず一つの樹を育ててから少しずつ他のことに手を伸ばすことが大切と話してくれました。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	4名
2018年	1名

### 求める人物像

#### 目標を持って

会社というのは活気がなければ良い方向へと進みません。良い方向へと進むには社員一人ひとりの気持ちが大切です。そういった場所では常に前向きで明るく、プラス思考で積極性のある人を求めています。人間は皆一人ひとり自分の人生を持っています。どう生きるかは人それぞれです。ですが、私が求める人はそういった思考を持った人たちも含め、「目標」を持っている人を一番求めたいです。「失敗したらどうしよう」など、やる前から諦めるのではなく「失敗してもいいからやってみよう」とチャレンジ精神を持つことが大事ですね。そうすると人は動きが変わるものです。行動や考え方も大きく変わります。私たちが求める人のように、何事にも積極的となりプラス思考が変わっていくかもしれません。逆に目標を持たない人は死ぬことが目標となってしまいます。ただ生きていくだけということです。大切なのは人には目標が必要ということです。人は目標があると変わることができるのです。



### WISE 記者の 企業体験記

## 自分で考え、 アイデアを生み出す

今回体験したのは、グッドツリーで大学生のアルバイトが行っているものの一つをさせてもらいました。配られた用紙には仮想の新入社員の情報が載っています。その人は月に5回の遅刻、仕事をしないなどの問題があり、私たちはこのやる気がない新入社員を、さらにやる気なくなる方法を15分間考えました。その後皆でそれぞれ考えたことを出し合って話をしました。私はさらにやる気なくなる方法を考えるのは難しかったです。逆にやる気にさせる方法ならもっとたくさん出たと思います。これはゲームストーミングのアンチプロブレムと呼ばれているもので、逆に考えるという手法です。今回例に出したような会社員への対応も長く続けると、思考パターンが決まってしまう、問題解決のパターンも決まってしまう。そこで画期的で斬新な解決策は逆に考えて出すことで、創造的なアイデアを生み出すことができるというものでした。アルバイトにくる大学生は、高齢者向けのゲーム感覚で楽しめるソフトを作っていますが、良いアイデアを生み出すためには頭をひねって考えなければいけません。このアンチプロブレムで大事なものは、自分で考えることです。これから就職するうえで面談などの相手と話し合う場というのはほとんど出てきます。そういった場所で自分の意見を出し合ったり、良いアイデアを生み出すためにはこの手法は良い効果を生むそうです。初めてアンチプロブレムを体験しましたが、普通とは逆のことを考えるというのは初めてだったので、楽しく体験させていただきました。



### 先輩の 声

#### やりがいを感じる仕事で早く一人前に。



今野 ゆかりさん  
サポート部

グッドツリーで仕事がしたいと思ったきっかけは、子どもが幼稚園に入園する際に職を変えたいという思いと、事務で人と話す仕事がしたいと思ったからです。サポート部として、他の仲間と一緒にユーザーからきた疑問点を解決する仕事をしています。常にユーザーの方と話しているので人と話すことが好きな人は向いているかもしれません。

この仕事に就いて一番苦労したのは、介護に関する知識がなかったため、介護の勉強をしたことです。とにかく今の仕事に慣れたいために仕事内容を早く覚えたり、介護について勉強をしました。全国各地の人と話するため、たまに方言が強い人が出ると、ことばがわからなくて困ってしまうときもありました。繁忙期である月の1日から10日は請求日のため、1日100件以上は電話の対応をしないとイケないので大変ですね。苦労することも多いですが、会社の仲間とは理解があるから仲がいいですし、他の会社と違って一部屋で本社なのでオープンな感じがします。社長とも普通に話せて意見も言いやすくてとてもいい会社です。今の目標としては早く一人前になることです。

### 記者紹介



東北学院大学3年 秋場 海渡

介護のソフトを作っているということで初めはピンと来なかったのですが取材をさせていただくうちに徐々に理解が深まってきました。清掃活動や震災復興関係といった地域の人とも交流を続けていきたいというお客さんとの信頼関係でもあるのだなと思いました。少子高齢化の時代で介護というのはこれから益々必要となってきますが、グッドツリーさんの介護ソフトをもっと多くの方に利用して欲しいです。とても勉強になる取材でした。



宮城学院女子大学3年 佐々木 真優

私は今回が初めてのWISEでの取材だったため、緊張した状態で取材に臨みました。事前の打ち合わせではメンバーと取材の流れを何度も確認し、質問もまとめていました。しかし実際に社長の西原氏と対面してお話すると、ひとつひとつの話を持ち下げて聴きたくてしまうほど興味深い話を伺うことが出来ました。私たちが暖かく迎えてくださったグッドツリーさんの魅力が伝わる記事を書けていれば、嬉しいです。

卸売業、小売業、建設業

# 株式会社 グリーンハウザー

〒983-0013 仙台市宮城野区中野字上小袋田18-1 TEL:022-254-4170 FAX:022-254-2567  
URL: http://www.greenhouser.co.jp/



**代表者** 和泉 一昭  
代表取締役社長

**資本金** 1億5,800万円

**創立・設立** 1973年



## WISE記者の 企業体験記

### お客様も社員も大切です。

今回私たちは管理部の齋藤部長に会社の中を案内していただき、グリーンハウザーで働いている方々がどのように働いているかを見学させていただきました。1階を一通り回り、社内の2箇所ほどに設置されている階段を上がって2階に行ってみると、社長室や社員がご飯を食べるスペースになっていました。社内の2箇所ほどに階段を設置することで、移動しやすい作りになっていると思いました。内装の柱は全て木でできており、社内は居心地の良い木の空間に仕上がっており、ほんのりと木の匂いを感じることができます。会社の見学を終えて、グリーンハウザーの、仕事がしやすい環境作りへの配慮を感じることができました。続いて外へ案内され、会社の敷地内にある倉庫を見学させていただきました。壁に使うためのいろいろな厚さの合板や断熱材などが置いてあり、倉庫内は木の匂いが充満していました。齋藤部長は「現場ごとに資材を出荷できることが会社の強みです。そうすることによってお客様のニーズにも答えやすくなり、コストも抑えることができます」と誇らしげに話してくださいました。木材は日本の各県から集めてくるもの以外にも、カナダ、アメリカ、フィンランド、スウェーデン、ロシアなどから輸入しているそうで、気候の違いなどから、それぞれ木目や年輪の形が違いました。倉庫で働いている人たちは午前と午後15分ずつ休憩があり、休憩スペースには冷暖房、ウォーターサーバーが完備され、力仕事で疲れた体をいたわる部屋になっているそうです。



## 健康で快適な笑顔の住まいづくり



和泉 一昭  
代表取締役社長

### 事業内容

#### 住まいの総合企業

主な業務は住宅資材の販売、住宅関連の施工請負、木造住宅の新築・リフォーム工事です。つまり、住宅建築の際の資材調達から住宅の建築までを1社で請け負うことができます。グリーンハウザーの住宅建築では、北米を中心に普及している木造建築工法である2×4（ツーバイフォー）工法を用います。2×4工法は耐震性、耐久性、省エネ性、経済性など、その他多方面において優れた工法で、自社で床・壁・天井として使われるパネルを2×4工法で製造する工場を持っています。そのため、より現場に応じた対応が可能です。また、子育て世代向けの「子ども導線採用住宅」の提案もしています。「子ども導線」とは、子どもの片付け、学習などの習慣づけを手伝う導線のことをいいます。住まいづくりが子育て支援につながっているのです。このように、住む人の生活に寄り添った住まいづくりにも取り組んでいます。

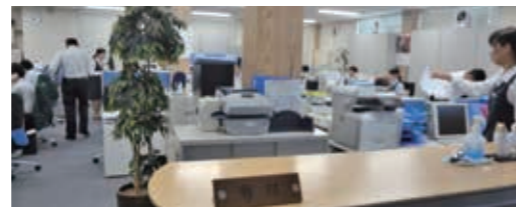
### 採用情報

※直近の採用人数	
2016年	4名
2017年	2名
2018年	1名

### 求める人物像

#### 明るい人柄と向上心

私たちが最も重視しているのは人柄です。採用の際は、その人が明るく、協調性があり、周りの人としっかりコミュニケーションを取ることができる人であるかどうかを見ています。お客様はもちろん、同じ会社で働く同僚たちともコミュニケーションを取り合い、いい雰囲気の職場を作っていくことが必要となってきます。また、向上心があり、自分の夢に向かって進み続けられる人であるということもとても大事です。向上心や夢を持つ人は、自ら積極的に成長し、さまざまなことに取り組んでいくことができます。これができている人はとても魅力的です。また、建築士、施工管理士、宅地建物取引士などの資格を持っているとき、それらの資格を生かす力が重要となってきます。今は、人材を集めることが大変になっています。それを踏まえ、私たちは今までの雇用の際の面接方法を変えていくことも考えています。今後も、世の中の人材雇用の状況は変化していくと思われます。この会社を選んで働く社員たちには、会社を大事にし、ぜひとも長く働いてほしいです。



## 先輩の 声

### グリーンハウザーの社員として高みを目指して



武山 優希さん  
住宅事業部

入社3年目で営業の仕事しています。主に資料づくりや事務作業、現場の挨拶回りなどを行っています。入社3年目は、就活している時、何箇所か受けた企業の中の一つがグリーンハウザーでした。その時社内の雰囲気がよく、人間関係が良いことから就職することを決めました。今までで一番楽しかった仕事は、入社してすぐに任されたチラシ作りの仕事ですね。任されたとなればとことんこだわりたいタイプなので、納得いくまでやりすぎて自己嫌悪に陥ることもありました。しかし完成品を褒めてもらえたのですごくやりがいがあり、うれしい思い出になりました。仕事で辛いことがあってもこんな悩みはちっぽけだと思うようにしています。自分ができなくて悔しいことも多いですが、前向きに取り組むようにしています。高校時代はソフトボール部で部長をしており、大学生になってからは焼肉屋でアルバイトをしていました。海外旅行が趣味で今年度はフィリピン、韓国、プーケットに行きました。来年はベトナムとダナンに行ってみようですね。ここぞという仕事をするときには大好きな焼肉を食べたり、好きなアーティストの曲を聴いたりして気持ちをあげています。

## 記者紹介



東北工業大学2年 佐藤 有紗

1社目の取材で最初とても緊張していました。しかし気さくな社長さんと社員さん方のお話を聞いているうちに楽しくなってきた。聞きたいことがたくさんできて取材が本当に楽しかったです。社内の雰囲気もとてもよく、のびのびと働いているのが感じ取れました。社員さん同士の仲もとても良さそうなので、自分も将来勤めるならこのような職場がいいなと思わせていただけるような会社でした。



東北学院大学2年 上杉 明日香

会社の内装には木が多く使われ、温かく落ち着いた雰囲気でした。「会社」というもののイメージとの違いに驚くとともに、思いがけず木のぬくもりの良さを体感することができました。会社が求める人材についてお伺いした際、社長は何度も「人柄が大事」とおっしゃっていました。その言葉の通り、社長も社員の方々が気さくで温かい人柄です。社員を大事にし、よりよく成長していこうとする、とても素敵な会社だと感じました。

宿泊業、飲食サービス業

# 株式会社 サンワ・レストラン・クリエイツ

〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-5 コア本町ビル5F TEL:022-221-7659 FAX:022-221-7664  
URL: http://www.sanwarc.co.jp/



**代表者** 大宮 カレン  
代表取締役

**資本金** 500万円

**創立・設立** 2008年

**受賞歴** 2017年 食材王国みやぎ 推進優良活動表彰 地産地消部門大賞

## 食を通じてお客様に感動を



柴田 賢  
第二営業部執行役員部長

### 事業内容

食を通じて心を豊かにする「時間」と「価値」を提供する

飲食店経営を行っています。仙台市内に13店舗を構え、居酒屋、ビアホール、韓国料理などさまざまなジャンルのお店を展開していますが、業態はあえて絞らず、時代に合わせバラエティに富んだ店舗の経営に取り組んでいるそうです。

地元の食材やお酒を中心に扱い、宮城県がおこなっている「食材王国みやぎ地産地消推進店」には、経営する11店舗のお店が登録。社内には利き酒師がおり、蔵元との関わりがあるため、毎月お酒の飲み比べイベントを開催しています。お酒はもちろん、地元のお料理との相性を楽しむ会になっており、男女問わずお酒好きの方々がいらっしゃるイベントです。

「食を通じて、お客様にどのような価値を与えられるか」「地元にとってどんな存在であるべきなのか」。地域とのつながりを常に考え、食を通じて心を豊かにする「時間」と「価値」の提供に力を注ぎます。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	5名
2017年	3名
2018年	7名

### 求める人物像

いろいろなきっかけでやりたい

食が好きなのは、私たちとお客様と接する上で共感できる部分が多いと思います。美味しさを分かち合えるからです。飲食店と一括りにしても、働く人それぞれに合うポジションがあり、いろいろな人がいろいろなきっかけで入社しています。お客様に楽しんでいただいたり、幸せにしたいという向かう方向は一緒でも、その人の持ち味で表現の仕方が変わります。そういった自分の持ち味を生かすことができる会社です。自分で興味をもって行動に移す人は、将来責任のある立場に就いた時も、仕事を楽しむことができると思っています。自分に何が向いているのか、何をしたらよいか分からなくて悩んでる方もいると思います。しかし、悩みながら、もがきながらも一生懸命やる中で見えてくるものもあると思います。お店は舞台だと思えば、働く人はそこで活躍する女優さんや俳優さんだと思うんです。その人の長所や、短所が一緒になって、個性となって表現されるからこそ輝くのではと感じます。少しでも興味をもった方はぜひ見に来てもらえたら嬉しいです。



### WISE 記者の 企業体験記

## お客様に美味しい料理を提供するために

調理場とろりを見学させていただきました。調理場では主に仕込み、サラダ、揚げもの、煮ものを行います。飲食業にとって、仕込みは命といわれますが、仕込んだ食材の賞味期限が切れてしまえば元も子もないので、曜日ごとに食材や分量を工夫しているのだそうです。包丁や火を扱うことが多いので、けがをしないよう注意を払います。決められた仕事を淡々とこなすだけではなく、気付いたことがあれば声をかけ、忙しい時間帯には臨機応変に対応しているそうです。自分が今何をすべきかを考えながら調理をすること、技術はもちろん、頭を使っての仕事が多いことに驚きました。和気あいあいとした雰囲気調理場だからこそ、社員とアルバイト同士の団結力が生まれ、より美味しい料理が出来上がるのだと思いました。いろいろでは、看板料理であるいろり焼を中心に、地元の山海の幸、旬野菜、仙台名物厚切り牛たん焼きなどを作ります。じっくり丁寧に焼き上げることで、素材の持つ美味しさを十分に引き出せるのだそうです。大きな火柱が立ったいろりで調理する姿は、まさに職人技でした。

何より、お客様に美味しい料理を提供することが仕事なので、実際に「美味しかった」という声を聞いたり、「また来たい」と帰り際に握手をして帰られるお客様の姿を見ると、凄く嬉しくなるそうです。今回は、お通しで出している人参の天ぷらと、人気メニューのだし巻き卵を作ってくださいました。どちらの料理もとても美味しく、幸せな気分になりました。



### 先輩の 声

#### 好きなことを仕事に



相澤 昌吾さん  
キッチンスタッフ

お客様に美味しい料理を提供するのが仕事です。具体的には調理場でサラダ、揚げ物、焼き物、仕込みを行います。流れとしては出勤してから開店までは、宴会や次の日の仕込みを行い、開店してからラストオーダーまでは注文された料理を作ります。

この仕事を選んだ理由は、昔いところ料理している姿を見てカッコいいと思ったことがきっかけで、料理を経験するようになりました。大学生活では一人暮らしで自炊をし、アルバイトでもキッチンで料理を作っていたことから、料理がどんどん好きになっていきました。自分は料理とスポーツが好きで好きなことを仕事にしたいと考えていましたが、自分の身になるものは料理だと思ったことや両親から誰かのためにやる仕事の方がいいというアドバイスをもらったことで料理の道に進むことを決めました。

仕事で大変だと思うことは、包丁を使う時にけがをしないように気を付けることです。その分スピードが遅くなってしまうので、どうしたら効率よくできるか、先のことを考えたり、料理の仕込みを週末は多めにこなしたり、曜日ごとに量を変えたりなど、体だけではなく頭も使って工夫します。大変なこともありますがお客様から「おいしかった」と喜んでもらうことが嬉しく、とてもやりがいを感じています。



宮城学院女子大学2年 遠藤 陽香

取材をしている中で、みんなでおいしいものを食べたり大根を育てたり、さまざまな方面から食に関わっているという話を楽しく話して下さる様子から、みなさん食べることが大好きなんだということが、すごく伝わってきました。そのような姿を見て自分が好きなこと、やっていて楽しいことを仕事にするのは、やりがいがありとても大切なことだと感じました。



東北芸術工科大学3年 菊池 みなと

食えることが大好きな私は、飲食の企業に取材できる日をとても楽しみにしていました。伊達のいろり焼き 蔵の庄は、東北の食材を使った料理が多く、地域に特化した居酒屋だと知りました。社員の方々がアットホームな雰囲気、お客様がまた来たい理由が分かりました。取材中にいただいた人参の天ぷらとだし巻き玉子の味は、今でも忘れられません。今度は、家族や友人を連れて食べにいきたいです。ありがとうございました。



宮城学院女子大学1年 太田 杏梨

店内は、明るい声が響き一人ひとりが輝いていて、まさに一体感、団結力をすごく感じました。だからこそ、お客様により美味しい料理や笑顔を届けられるのだなと思いました。そのような環境を生み出すには何よりもコミュニケーションが欠かせないことが分かりました。自分も幸せになる、相手も幸せにできる素敵な気持ちになれた今回の取材でした。貴重なお話を伺うことができて大変勉強になりました。

### 記者紹介

卸売業、小売業

# 株式会社 ジェー・シー・アイ

〒983-0034 宮城野区扇町5丁目3-38 TEL:022-782-6838 FAX:022-782-6838  
URL: http://www.jci-1000nen.co.jp



**代表者** 大信田 和義  
代表取締役社長

**資本金** 9,990万円

**創立・設立** 1976年



## WISE 記者の 企業体験記

## お客様に合わせたオリジナルの車いすが、過ごしやすい環境へと導く

車いすの製作現場を見学させていただきました。

ジェー・シー・アイでは、創設以来からオーダーメイドの車いすの製作をおこなっています。重度の障害を持つお客様が対象で、ヒアリング、図面作成、製作までの全ての工程を担います。既製品の車いすでは対応できない部分まで配慮できるのも、オーダーメイドの特徴です。製作に時間がかかったり、車いすを大量生産することが難しかったりしますが、その分使用者本人をはじめ、家族や生活環境に寄り添った車いすを作ります。特にこだわっているのは、「使用者本人の姿勢保持」です。姿勢が悪いと、顔が下を向いた状態になり、他者とのコミュニケーションが取りづらくなってしまいます。また、トイレを使用する際には、車いすを旋回しなければならず、半径を小さくしないとうまく曲がり切れないこともあります。これらを解決するために、入念なヒアリングを行い総合的に判断することが重要です。数多くの車いすの工場でも、フレームの曲げ加工をするところはほとんどないそうです。手作業だからこそ使用者の体に合わせ自由かつ、柔軟に製作します。シート類も、お客様に合わせて色や機能を選びます。人間の体のつくりはそれぞれです。だからこそ、お客様のご要望にお応えするオリジナルの車いすづくりが、より過ごしやすい環境に導いていくのだと感じました。



## 人とモノをつなぐ介護と福祉のジェー・シー・アイ



大信田 和義  
代表取締役社長

### 事業内容

#### 高齢者と障がい者のために

ジェー・シー・アイでは、オーダーメイド車いすの製作、福祉用具の開発・販売・レンタル、住宅改修、福祉施設の設計・運営、自社開発商品の製造・販売など幅広く取り組んでいます。オーダーメイド車いすは、利用者の体型や状態、使用する環境に合わせて一人ひとりに合った車いすを製作します。試作品を試乗して頂いて、改良を重ねて利用者にとって本当に合った製品を作りあげていきます。製作に2年かかった物もあったそうです。それだけこだわりをもって作っているということなんですね。ベッドやおむつなどの福祉用品は、福祉用具専門相談員がお客様と相談したりしながらベストな物を販売やレンタルしているそうです。住宅改修では、手すりやスロープなどを設置し、使いやすく安全な住宅を提案しています。自社開発商品で、驚いたのは「からやぶり」という商品。いつも大量の錠剤を開封する、老人ホームの職員などのために開発したそうです。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	2名
2017年	1名
2018年	3名

### 求める人物像

#### 面白く、個性のある人を求めています

福祉の資格は必要ありません。私たちは人物本位の採用活動をしていて、「学生時代に頑張ったこと」を胸を張って話せる学生を求めています。というのも、学生時代に何かに熱中した経験があることは、仕事に打ち込むことができる証拠だからです。仕事の99%は辛いことで占められます。でも残りの1%は嬉しい出来事です。その嬉しさを味わうことが、従業員の満足度を高め、仕事のモチベーションを上げ、離職を防ぐのです。社員が若いうちに感動を味わってやりがいを見出すためには、惰性ではなく、仕事に打ち込むことが必要です。だから、学生時代に頑張ったことがあるか否かを重視しています。また私たちは、一緒に働いていて楽しいか否かも大切にしています。その為に面白い人、個性のある人を採用したいと思っています。学生時代に力を入れたことがある人は、まさに面白く個性のある人なのです。



## 先輩の 声

### オールマイティな社員を目指して奮闘しています



早坂 美香さん  
管理本部 業務課

営業課の事務を担当しています。車いすの部品の発注、伝票の処理や電話対応が私の仕事です。学生時代は保育士を目指していたのですが、祖父がこの会社の介護用ベッドを使っており、担当の方と家族の勧めを受けて、入社を決めました。仕事を通じて福祉の知識を得て、祖父に紹介できるようになったので、この会社に入って良かったと思っています。私は今年の4月に入社したばかりです。苦労しているのは、仕事に優先順位をつけることです。というのも、仕事が次々と舞い込んでくるなかで、期日を守らなければならないからです。ビジネスでは、人との約束を守ることが信頼を得る第一歩です。期限内に仕事を終わらせるように、日々訓練しています。今の目標は、一人で仕事を回せるようになることです。例えば、お客様からお電話をいただいた時に担当の営業社員が休みをとっていることがあります。そんなときに代わりに対応して穴埋めができるのが理想です。そのために事務だけではなく営業の仕事も覚えて、できる仕事を増やしていきたいと思っています。

## 記者紹介



東北大学3年 菅野 雄哉

私は、取材中にお聞きした、ある社員さんの言葉が忘れられません。それは、「当社では一人ひとりが役割をもって働いている」ということです。例えばパソコンに詳しくシステム管理を任されている人など、皆さんが自分の特技を生かした役割を持っていらっしゃるのことが嬉しかったです。個性を大切に、この会社ならではの社風なのだと思います。私も自分にしか持っていない役割を見つけたいです。



尚絅学院大学3年 武田 光

今回ジェー・シー・アイさん取材して、話を聞くことができた社員の方から風通しの良い会社だし、社長が社員を信頼してくれている会社だという話を頂きました。就職活動が始まっている私からしたら、webページ上では見られないリアルな現場を覗くことができました。どんな時代になっても世の中に立つ企業を目指しているというジェー・シー・アイさんには底知れない魅力があると感じました。



東北芸術工科大学3年 菊池 みなと

介護・福祉の仕事は人に寄り添う職業である分、精神的にも、肉体的にもきついものばかりだと思っていました。ですが、障がい者や高齢者の方々が、当たり前前の生活を送るための手助けをする重要な役割を担っているのを知り、感動しました。また、社員の個性や生き方を大切にしている社風にも、凄く魅力を感じました。「宮城県の介護福祉の会社と言えば、ジェー・シー・アイ」と言われる時代は、すぐにやってくるかもしれません。

不動産業、物品賃貸業

# スモリ工業 株式会社

〒983-0013 仙台市宮城野区中野1-5-9 TEL:022-254-2233 FAX:022-258-5611  
URL: <https://www.sumori.jp/>



**代表者** 須森 明  
代表取締役

**資本金** 1億2,800万円

**創立・設立** 1975年

**受賞歴** 2015年 東久邇宮文化褒賞



## ここが知りたい 見えない部分だからこそこのこだわり

100年住める家ってどんな家だろう。そんな疑問を抱きながら取材をさせていただきました。庄司常務には断熱材のお話を伺いました。断熱材は建物の中に使用されています。一般的に断熱材には、グラスウールという綿状のものや、ウレタンを発泡させたものを使用していますが、水を含むと断熱どころではなくなってしまうそうです。例えば冬だと外の冷気と家の暖気とで結露を起し、カビを発生させる原因になります。また、そうした結露により家を内部から腐らせ25年～30年経つと建て替えが必要になってしまいます。さらに怖いことに、万一の場合、家に火がついてしまうと瞬間に燃え広がるそうです。

スモリ工業では、そうしたグラスウールなどの一般的な断熱材ではなく、水を含まない素材、燃えない素材の特殊な断熱材を使用しています。実際に2種類の断熱材に触らせていただきましたが、特殊な断熱材の方が乾いていて軽く、同じ断熱材でありながら全然違う印象を受けました。

さらに、その断熱材をアルミフィルムでくるむそうです。アルミの性質として空気を通さず、湿気も通しません。加えて、熱を跳ね返す「輻射」の効果もあります。

そういった目に見えない部分にこだわりを持ち、企業コンセプトである「100年快適住宅」を目指して、お客様に安心と安全をお届けしているということが分かりました。人生で一番高い買い物なので、ここまでこだわりを持ってくれると安心して住めますね。

## 地元に根ざして100年住める住まいづくり



須森 明  
代表取締役

### 事業内容

#### 地元企業だからこそできるサービス

「総合住宅建設業」といわれる、「家」に関するさまざまな事業を展開しています。主な事業となるのは、住宅の建設です。家を建てたいというお客様に対して「注文住宅」という形で要望を聞き、家を提供していきます。実際にお客様に選んでいただくのは、「色」と「間取り」のみ。これは、スモリの家を性能を活かし、お客様への最大限の住みやすさを実現するためです。建材にはどのようなものを使っているのか、どんな性能があるか丁寧に説明します。

また、家を建てる時だけでなく、建てた後のアフターフォローも重要な仕事の1つです。住宅で暮らすうちに生じた悩みやトラブルにすぐに対応できるよう、「本社から1時間半で行ける距離」をスモリを家のエリアとしています。北は一関、西は山形、南は福島と相馬。これがスモリを家のエリアであり、地場産業として長くお客様とお付き合いしていくための工夫です。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	1名
2018年	3名

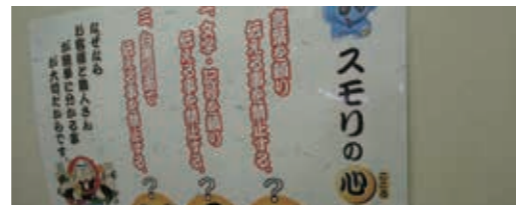
### 求める人物像

#### 有限実行。それが信頼される理由

「まじめでやる気がある人。そして、元気がある」。やるべきことに挑戦しないで、口だけ達者な人には信頼が付きません。「住宅」を売るということは、お客様の一生の買い物に立ち会うということ。つまり信頼が必要です。スモリの家は、今まで住宅の建設に立ち会ってきた約7,000件のお客様に対して、年末年始のご挨拶のためにカレンダーを配りにいくほどお客様との繋がりを大切にしています。

実際にお客様とお話するのは営業の社員の仕事。社員一人ひとりが「スモリの家」という看板を背負っています。「住宅」という大きな商材を扱っているため、お客様との打ち合わせの回数も自然と多くなります。そんな会社の顔となる社員に元気がなかったり、やる気なかったりしたら、会社全体のイメージが崩れかねません。

自分のやるべき仕事とお客様に真剣に向き合い、挑戦できる人のことを、スモリ工業は応援します。



### 先輩の声

#### お客様に寄り添う存在に



昆野 雅樹さん

前職は車関係の整備の仕事をしていましたが、人と触れ合う機会が少なく、お客様と深い関係を築くことができる仕事をしたいと思っていました。家はお客様にとって人生で一番大きな買い物であり、そこに立ち会えることに魅力とやりがいを感じ入社を決めました。その分プレッシャーや責任を感じることはあります。ですから住宅のことだけでなく、お金のことや人とのコミュニケーションにおいても学ぶことが多々あり、日々勉強中です。

仕事をしていて難しいと感じるのは、自分の伝えたいことをいかにわかりやすくお客様に伝えられるかということです。お客様とお話する中で言いたいことが伝わらないと、もどかしく思うこともあります。しかし、自分の知識や考えをただ伝えるだけでなく、何が求められているのか見極め、的確にお答えできるよう心掛けています。不安を解消することができ、「ありがとう」と言われると本当に嬉しいです。これが次へのやりがいにつながっています。

今後も意識していきたいのは、こちら側からたくさん質問を投げかけ、お客様が何を疑問に思っているのか聞き出していくことです。お客様に一番に寄り添う存在でありたいと思っています。

### 記者紹介



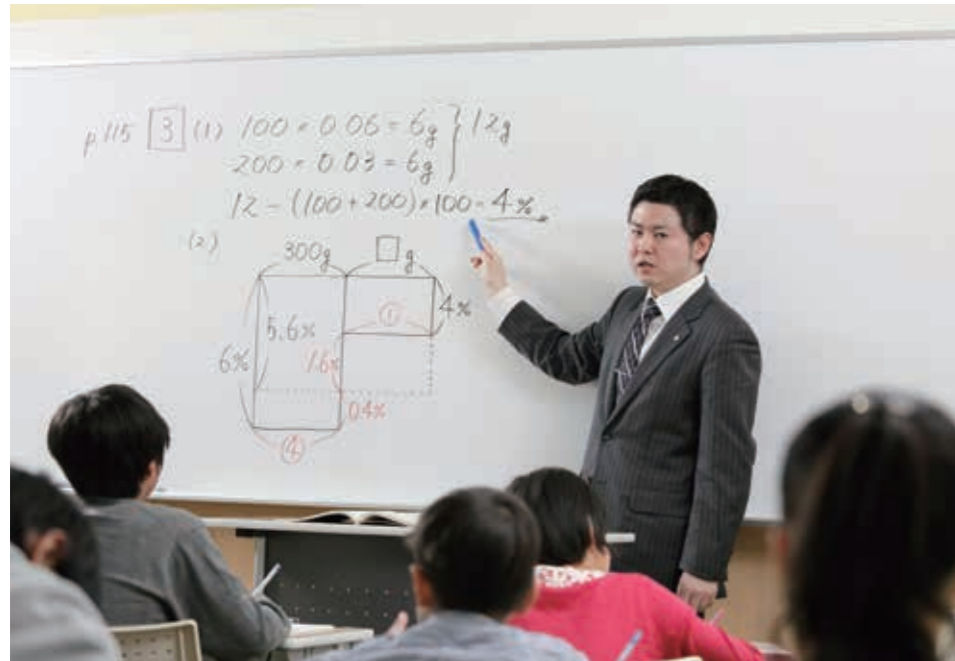
宮城大学3年 鈴木 綾華

住宅というものに関して「暮らす場所」という認識しなかった私にとって、新しい発見ばかりの取材でした。スモリの家には家を作る職人さんの思い、その家を提供する社員の皆さんの思いが込められているということを感じました。ハウスタジアムでは、スモリを家の過ごしやすさ、耐久性を体験することができ、「家づくり」について深く考えるきっかけになったと思います。

教育、学習支援業

# 株式会社 仙台進学プラザ

〒984-0065 仙台市若林区土樋104 TEL:022-217-7031 FAX:022-217-7506  
URL: https://shin-pla.co.jp/



**代表者** 阿部 孝治  
代表取締役

**資本金** 4,990万円

**創立・設立** 1985年

**受賞歴** 第46回仙台広告賞新聞部門銅賞  
第47回仙台広告賞新聞部門金賞



## とことんめんどうみ主義



阿部 孝治  
代表取締役

**事業内容**

**選抜制集団指導で難関校の合格実績を上げる**

集団指導でも生徒の成績によってクラス分けをしており、生徒をそれぞれの志望校に合格させることが目標なので難関校を目指す生徒には特別カリキュラムで指導しています。また、授業だけでなく、生徒と1対1の面談をする機会を設けています。生徒と個々に面談することにより、さまざまな問題や課題を解決し、ときには生徒の将来の夢に合った志望校に変更することもあるそうです。

個人差があり、一人ひとりに対する指導は異なりますが、勉強の不得意な生徒に関しては、基礎を反復演習する教材やプリントを数多く薦めているそうです。期末テスト期間には、各学校の過去問を参考に学習を行っているとのこと。仙台進学プラザには各学校の過去問題が数年分保存されているとのことでした。

授業では子どもたちが勉強でわからない部分を気軽に質問できる雰囲気作りを心がけており、子どもたちが理解するまで指導することがスタッフ全員のこだわりです。

**採用情報**

※直近の採用人数

2016年	27名
2017年	15名
2018年	21名

**求める人物像**

**「わかった」を引き出す情熱**

塾などの教育業界をイメージすると、学力を重視しているイメージがある方が多いと思います。進学プラザでは一定の学力は必要になりますが、学部学科、資格は問いません。それ以上にとことんめんどうを見る情熱とコミュニケーション能力を重視しています。生徒、保護者の方など「人」を相手に仕事をするため、心地よい自然な対話ができ、明るく元気であることが大切になります。また、「めんどうみ主義」を指導理念としていることから、生徒の「あ、わかった!」を引き出せるまでめんどうをみられる熱い情熱も必須だと思えます。人の成長の一部を手伝うことができることは、魅力の一つです。自分自身が情熱をもって教えることで、子どもたちは変わっていきます。とことん面倒を見て、向き合うことで、子どもたちは成長していきます。子どもの数だけ「わかった」を引き出す方法もあると思います。子どもの成長を預かることは大変なことですが、試行錯誤しながら成長を見届けられる達成感とワクワクを味わえる、やりがいのある仕事にチャレンジしてみませんか?



WISE 記者の  
企業体験記

## 生徒一人ひとりのために

私たちが向かった五橋校は若林区土樋に校舎を構えており、仙台市立荒町小学校に隣接しています。更には地下鉄愛宕橋からも近く、非常にアクセスのいい校舎でした。私たちは実際に設備を見学しましたが、外装、内装共に非常に綺麗に保たれていました。教室は一般的な集団授業のために作られたものから自習室、講師とマンツーマンまたは生徒二人に対して講師一人で授業する個別指導専用の教室までありました。さまざまな教室を設けることによって生徒に合った学習が行えることはよりよい学習に繋がると感じました。

教室は、講師が掃除やメンテナンスを行っているそうです。てっきり清掃員の方がやっているのかと思っていたため、意外な一面を知ったとともに、自らが点検や美化に時間を割くことによって授業や生徒への思い入れが強くなるなど感じました。また、小学生の指導に「パズル道場」という講座を開講しており、それによって「イメージ化能力」「仮説思考力」といったものを育むようです。「パズル道場」は主に中学受験対策に効果的とのことですが、社会へ出てから問題解決能力を発揮することにもつながるそうです。これには遊び道具のようにも見えたのですが、学習に対する意欲促進を図りつつも二つの力を上昇させる効果があるのは実に画期的だと感じました。



先輩の  
声

## 将来子どもがやりたいことを伸び伸びとにやれるように



立崎 雄悟さん  
一高・二高TOPPA館

大学で行われていた企業説明会が仙台進学プラザとの出会いでした。その時にじっくりと話をさせていただき、自分はどの社会に貢献できるだろうかと考えました。発明したり、何かをつくりたいという社会には貢献することはできないが、将来そのような人材を育てることで社会に貢献できるかもしれないと思いました。

大学では文系科目を学んでいましたが、教室の授業では国語、社会、英語の他にも理系科目も教えています。限られた科目を極めるよりも、すべての科目を教えられるようにすることを目標にしています。それは、生徒が質問したいときに、担当科目の先生が不在で質問ができないといった状況を作りたくないからです。努力しても叶わないものが多くある中で、勉強は努力次第で伸びていくものです。子どもたちが将来やりたいことを叶えるためには、勉強が必ず必要になると思います。私は、勉強を頑張ることは夢を叶えるために必要なものだと思っています。そのためにも、どんな時にも、どの教科にも対応できる講師を目指しています。

この仕事は一年を通して自分の成長も分かります。特に合格発表の日は生徒と先生の努力の結果が出る日なので、合格の連絡があったときは本当に嬉しいです。生徒と共に成長できる仕事に常にやりがいを感じます。

記者紹介



東北学院大学3年 佐藤 光

今回、仙台進学プラザ取材して、阿部代表の人を育てるといふ考え方が強く印象に残りました。テストの成績が悪い生徒のほとんどは、成績の良い生徒の約3倍勉強の量が少ないそうです。勉強をしない生徒に必要なことは動機づけだそうです。動機づけをすることによって、生徒の成績を上げているようです。このように、すべての生徒を合格に導きたいという使命感が溢れており、素晴らしい学習塾だと思いました。



宮城学院女子大学3年 桜庭 沙友里

私も2年間塾講師を経験していたので、親近感を持って取材をすることができました。子供の学習をサポートをするといった単純な仕事ではなく、「成長の一部を預かる」責任のある仕事だと改めて知ることができました。成績や受験の結果などで生徒と喜びや悲しみを分かち合いながら、お互いに成長し合えるのは塾で働く魅力だと思います。子供たちの将来のために働く社員の方々が生き生きといて印象的でした。



東北工業大学2年 中村 凧音

最初から最後まで親切な対応をしてくださって、初めての取材が非常に取り組みやすかったという印象が一番でした。代表の真剣なお話と先輩社員の方の具体的な内容が面白く、用意してきた質問以上に聞きたいことが多く出てきたため再び訪問し、取材に行きたいという気持ちが残りました。それとともに自分も社員側で取材を受けてみたいなんて思ったりもしました。

卸売業、小売業

# 仙都魚類株式会社

〒984-8522 仙台市若林区卸町4丁目3-1 TEL:022-237-8300 FAX:022-237-1377  
URL: http://www.sento-gyorui.com



**代表者** 鈴木 文史朗  
代表取締役社長

**資本金** 1億2000万円

**創立・設立** 1948年

**受賞歴**



## 東北の拠点市場の一員として責任ある仕事



鈴木 新一郎  
専務取締役

### 事業内容

#### 新鮮な魚を、適切な価格で

農林水産大臣の許可を得た仙台中央卸売市場の卸売業者として、日々国内、国外から仕入れた生鮮食料品を仲卸業者、買受人などに卸売ることが主な業務です。特に力を入れている業務の一つが「価格形成」です。魚の大きさ、鮮度はそれぞれ魚によって異なるので、それに見合った価格をお客様に提示しなければなりません。なぜこのような価格になるのかをお客様に丁寧に説明し、せりなど公開の場での取引も含めて、透明性の高い価格設定を常に心がけています。卸売市場の業務として、生産者にトラブルがあり、仕入れが完全にストップしてしまうなどの不測の事態を避けるために、仕入れた水産物の一時的な保管をしています。お客様に市場の商品を安心して購入してもらうために、食品の安全性のチェックや施設、設備などの衛生管理も行っています。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	5名
2017年	6名
2018年	5名

### 求める人物像

#### 素直で食への探求心がある人

人と人との商売なので、素直で元気がある人を求めています。お客様からの信頼なしには、商品を買ってもらえません。お客様と付き合う上で、はきはきとした話し方、言葉遣いなどの誠実さが非常に重要になります。また、魚のことはもちろん、食べることに興味のある人も求めています。売る側が物、食べ方を知っている方がお客様と良好な関係を築きやすくなり、売上増にもつながっていきます。近年魚の消費量が減少傾向にあり、食生活も多様化してきています。お客様のニーズの変化に素早く対応するには、求められている水産物の特徴、旬はいつなのか、よくとれる場所はどこかなどの知識を持つことによって、自社の水産物を買ってくれる人が増え、お客様からの信頼を得ることもつながります。このような、お客様と誠実なやりとりができる人、食への探求心が旺盛な人を私たちは求めています。



### ここが知りたい

#### 朝が早い！

取材・撮影は早い時間にさせていただきましたが、市場のイメージは「セリ」を行っている場所という印象が強くありました。セリが行われるのは早い時間ということもあり、市場で働く人たちは一体、どんな生活のリズムでお仕事をされているのか、その生活のリズムに慣れていけるかどうかということが気になりました。先輩社員の神林さんにお話しをお伺いしたところ、学生から社会人になった当初は、ちょうど寒い時期ということもあり、やはり生活のリズムを整えるのに苦労されたそうです。しかし生活のリズムにも徐々に整っていき、また仕事の楽しさも相まって、「今ではすっかり慣れました」とのこと。友人たちとお酒を飲む時間が合わせにくかったこともあり、久しぶりに会ったときには、つい20時くらいまで飲んでしまい、翌日の出勤時間に遅れそうになってしまったという失敗もあったそうです。仕事を始めた当初はそれまでの生活のリズムとは違うので、少し不安な面もありましたが、これなら働けそうだという安心感を得ることができたとのこと。現在はだいたい18時～20時くらいには眠くなり、寝てしまうと話してくれました。生活のリズムを合わせることは、最初のうちは大変かもしれませんが、職場の風通しが良く、1年目から自分でしっかり考え、思った通りの仕事ができるということで、「とても働きやすい職場環境だと感じられている」そうです。

### 先輩の声

#### 1年目からチャレンジできる、雰囲気の良い職場



神林 憲太さん  
鮮魚二部 特種二課

鮮魚二部、特殊二課という部署で、主にあわびや貝類全般、うになどの販売を行っています。入社きっかけは二つあります。一つは、お客様と直接関わる仕事内容であったことです。体育大学出身ということもあり、デスクワークよりも人と直接関わる仕事がしたいという気持ちがありました。二つ目は、会社見学に行った際に、社内の雰囲気がとても良く、風通しの良い職場だと感じたことです。特に私の所属している鮮魚部は、元気な社員が多く、常に活気があります。そのため分からないことはいつでも先輩に聞くことができ、安心して仕事ができます。また、入社1、2年目の社員でも裁量権が大きく、主体的に働けることも入社を決めた理由の一つです。この仕事で一番やりがいを感じた瞬間は、お客様から、「お前だからこの商品を買おうだぞ」という言葉をかけてもらったことです。お客様との信頼関係を築くことは簡単ではないですが、自分の頑張りが認められた時の嬉しさは計り知れないものがあります。これから就職活動が始まる皆さんにアドバイスをすると、自己分析を今のうちからやっておく、企業の雰囲気はパンフレットを見ただけでは絶対分からないので、興味のある企業の企業訪問は必ずすることをおすすめします。

### 記者紹介



東北学院大学2年 滝田 龍平

今回の取材をする前までは、どのようなプロセスで生鮮食料品が消費者に届くのかということを考えていませんでした。メーカーや小売店などと比較して卸売業者は注目されにくいのですが、生鮮食料品の流通で大きな役割を担っていることを知ることができました。また、企業体験でセリの見学をさせていただき、迫力のある現場を肌で感じる事ができました。これからは、店頭と並んでいる生鮮食料品の見方が変わると思います。



鉱業、採石業、砂利採取業

# 東京石灰工業 株式会社 丸森工場

〒981-2145 伊具郡丸森町字川田島14-1 TEL:0224-72-2571 FAX:0224-72-2353  
URL: https://toseki.com



**代表者** 板橋 和彦  
執行役員 ゼネラルマネージャー

**資本金** 3,000万円

**創立・設立** 1941年

**受賞歴** 2018年 資源エネルギー省長官表彰



## 道路、建物、そして人の歩みに寄り添う丸森工場



板橋 和彦  
執行役員  
ゼネラルマネージャー

### 事業内容

#### 従業員が一丸となって働いています

採掘場で岩石を採取し、工場で製造した砕石を、企業に販売しています。道路や建物に必要な砕石は土地によって異なりますが、どれだけ砕石を使うかニーズによって、生産計画を立て備蓄をしています。例えば、病院を作るためには数万トン単位の砕石が必要で、道路は距離数によって必要な砕石の数量を見立てます。一番多い出荷先は、道路会社と生コンクリート会社です。東日本大震災後は、壊れた道路、橋や建物を直すために仕事の受注数が増えました。丸森工場では全国でも数少ない玄武岩を採掘できるため、全国から玄武岩のサンプルが欲しいという依頼も来るとのこと。丸森工場の玄武岩は、硬くて品質が良いと、道路会社や生コンクリート会社で信頼されているそうです。原料となる岩石を採取する採掘場と砕石を製造するプラント工場、砕石の配達と発注処理を行う事務所が連携して砕石を出荷します。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	0名
2018年	1名

### 求める人物像

#### 意思疎通ができ、まっすぐな人

明るくて真面目に仕事に取り組んでくれる人を求めています。また最近は街行く人がスマートフォンと向き合っています。連絡をする際もスマートフォンがあれば簡単にやりとりができてしまいます。そのため、人と直接会話する機会が減り、コミュニケーション能力が不十分な若者も多くいます。やはり仕事を行っていて、コミュニケーションがとれる人ととれない人では大きく違いがでくるといいます。また、資格についてはそれぞれの職種で異なります。例えば技術職で専門的な仕事をするためには、火薬を取り扱うための資格や、採石業務を管理するための資格が必要です。土木関係の学部を卒業している人が理想でもあります。しかし、一生懸命仕事をしてくれる人にはかなわないと思います。初めは慣れない仕事に苦労している人もいますが、だんだんと指示しなくても取り組んでくれるまでに成長していきます。そんな社員の成長を見て「教えてよかったな」というやりがいを自らも感じられます。



### WISE記者の 企業体験記

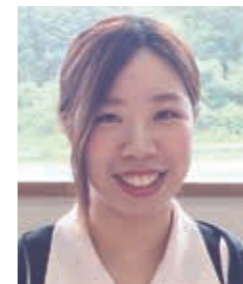
## 砕石工場は生活の立役者

日常生活ではあまりなじみのない砕石工場を見学させていただきました。丸森工場への道のりは長く、登り坂が続きました。砕石現場はとても広く、一般道路を走ることでもできないような大きなダンパーや作業車がありました。たくさんの作業機械がありましたが、修理や整備、買い替えの時期など、すべて一台一台管理しているそうです。また環境汚染対策として運搬車が工場に戻った際は、必ずタイヤを洗浄していました。作業中にもほこりが舞わないために、散水車による散水も行っているそうです。砕石にもいろいろな種類や大きさがありました。道路や線路、ビルなどいろいろな場所に砕石は使われていますが、種類や大きさによって役割は異なります。今回案内していただいた板橋さんと遠藤さんからは、それぞれの砕石の役割や特徴についてとても詳しく説明をしていただきました。例えば線路に敷かれている敷石はバラストという石が使われています。バラストがクッションになり、列車が通過した際の振動や音を吸収してくれています。しかしバラストはただの石ではなく、耐久性や機能面でも優れた石が使用されています。これまで敷石の役割を考えたことはありませんでしたが、普段利用している電車の線路にこのような工夫が施されていることを知り、とても感心しました。やはり砕石工場は私たちの生活がある限り存在し続けます。板橋さんと遠藤さんからは、これからも砕石工場を大きくしていこうという熱い思いが伝わってきました。



### 先輩の 声

#### お客様の一言が、励みになっています



佐藤 真彩さん  
事務職

事務職として働いています。伝票を照合したり、発注処理をしたりするため、電卓と付箋は必需品です。

進路について漠然としていた学生時代、東日本大震災を経験しました。それから復興に携わる業界に就こうと思ったことが就職した動機です。就職した当初は、電話対応が難しいと感じていました。電話対応は姿が見えないので、失礼にあたる場合に取り消すことができません。また、クレームの電話がきたときに相手が感情で話してしまうため、未熟な自分では対応しきれないと思ったこともあり。事務職は一般に成果が見えない仕事と言われます。しかし、電話を受ける際にお客様から「助かっている」「いつもありがとう」と言われると仕事を続けていて良かったと感じます。以前は、仕事を一人でしている感覚が強かったのですが、「事務職が全てのミスを見つけなければ、お客様に迷惑がかかる。」という先輩の一言で責任感が生まれました。今は、この言葉を教訓にして仕事を頑張っています。

### 記者紹介



東北工業大学2年 滝谷 拳汰

砕石工場は身近な企業ではないと感じますが、実はとても身近な企業であることがわかりました。私たちが何気なく利用している道路やビルはすべて砕石から作られています。それらは生活をする上でなくてはならないものであり、生活のすべてが砕石から創られているといっても過言ではありません。社員の皆さんはとても仕事に誇りを持っていました。それはやはり多くのお客様に信頼されている一つの理由なのだと思います。



宮城学院女子大学2年 齋藤 志穂

「社長にとって従業員は家族のような存在だ」という板橋さんの言葉から、中小企業のあるべき姿を示されたように思いました。砕石場を見学させていただいて、環境保全や従業員の安全にも細かな工夫がなされていると感じました。貴重な経験をさせていただきました。近年少子化が進んでいますが、いづれくる無人化に向けて機械を管理する人を増やしたいという熱意が伝わってきました。

製造業

# 日本ファインセラミックス 株式会社

〒981-3206 仙台市泉区明通3-10 TEL:022-378-7825 FAX:022-378-7832  
URL: <https://www.japan-fc.co.jp/>



**代表者** 足立 茂  
代表取締役

**資本金** 3億円

**創立・設立** 1984年

**受賞歴** 2013年 ISO 9001、  
2014年 ISO 14001



## 東北の下町ロケット。 ファインセラミックスの世界！



**坂 和弘**  
常務取締役 管理本部本部長

### 事業内容

#### ファインセラミックスだからできること

企業を相手に、国が定める8つの成長分野を軸に、セラミックスを原料とした商品を開発から納品まで行っています。主にBtoB方式を行っているため、日常生活で製品を目にすることはありません。ファインセラミックスは、金属と違い軽く丈夫な製品ができるため、製品を作るための機械の部品に使われていることが多いそうです。製品は、化学的に生成した粉を原料として1,700度の窯で加熱し、プレス加工することによって作られます。日本ファインセラミックスでは、お客様の要望に応えるため寸法精度がミクロン単位までの製品も作られることがあります。寸法精度が小さくなるほど、手作業で加工する場面が多くなりますが、企業の要望を社員が自分の頭で考えながら行うことで企業として、人として成長することができるそうです。今後も地元へ貢献できるよう、今後もお客様からの要望に応えられるよう、さらに成長していくと話してくれました。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	4名
2017年	7名
2018年	8名

### 求める人物像

#### モノづくりはコミュニケーションが必要不可欠

材料の開発は理系の出身者がほとんどですが、求める人物像として共通しているのは、日常の些細な出来事を素早く見つけ、意見を交換できる人。気づいた時に積極的に行動に移せる人です。

モノづくりをする中では、社内はもちろん、お客様とのコミュニケーションが必要不可欠なので、問題が起きた時に、いかに自分からアクションを起こせるかが重要になります。日本ファインセラミックスは、一つの部署に捉われず、他の部署とも協力し合い仕事をしているので、ノウハウや知識の共有は欠かせません。壁を作らずにオープンにして、部署ごとの悩みを解決するようにしています。

お客様に対しては、第一に接点を持たなければ会社のことを分かっただけなので、大切にしなければなりません。中には、工場内で「この部品が無いと作業が出来ないから、今すぐ持ってきてほしい」といった連絡が来ることがあります。瞬時に対応することで「この製品が無ければ動かなかった。ありがとう」といった感謝の言葉をいただくと、原動力に繋がります。

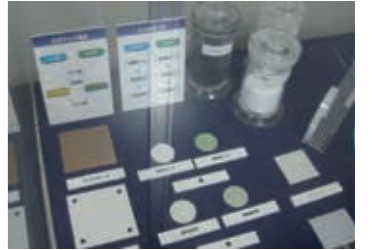


### WISE 記者の 企業体験記

## 手作業だからできる、 クオリティの高さ！

私たちは、本社工場内を見学させていただきました。工場は、本社敷地内と隣接する土地に第1、第2工場があり、富谷市内にもあります。各工場の違いは、精製される原料や製品としての用途が大きく違うそうです。今回見学した本社工場は、仙台駅から車で40分の泉パークタウン工業団地内にあり、周囲も工場や事業所、配送センターがありました。

工場内は、医療器具や人工衛星に使う部品を製造しているため、専用の靴と白衣などを身に着けて見学しました。今回は、原料を精製から完成するまでの一連の流れを見学しました。原料は、化学物質の粉を複数混ぜ合わせることで国が定める成長分野の部品を製造することができるそうです。この純度を高めた原料から製品の形にプレス加工をして製品の原型となります。プレス加工した製品は、約1700度の高炉で焼き上げます。夏場になると高炉の前はサウナ状態になるほど熱くなるそうです。見学した当日は、11月中旬と肌寒い日でしたが、高炉の前だけはとても暖かく暖炉のように感じました。高炉で焼かれた製品は、陶磁器と同じく20%程度縮むそうです。そのため、製品を製造する際は現場の人間が縮むことも計算しながらプレスする型を製造するため、現場の人間も成長しながら会社が成長していきます。焼かれた製品は、数ミクロン単位で出荷することもあるため不要な部分を削り、計測しながら完成に近づけます。完成した見本品は、とても触り心地が良く軽かったという点です。どれだけレベルの高い製品を製造しているかが分かる場面でした。



### 先輩の 声

#### 大学で学んだことを生かし活躍できる職場



**伊藤 友樹さん**  
品質グループ兼技術開発本部

窒化珪素プロジェクト品質グループ兼技術開発本部 開発部として、窒化珪素の品質改善や開発全般を担当しています。入社して半年後には、新しい機械の条件設定や先輩の指導をすぐに任せてもらえるようになりました。2年目になり、品質関係でさらに大きな仕事を任せられる機会が多くなりました。結果に繋がることは限られていますが、仕事に対するやりがいを感じています。仕事をする上で心がけているのは、オンとオフの切り替えです。学生の時とは研究室にこもって作業をすることが多かったのですが、社会人になってからは、仕事とプライベートを切り替えることで、集中して仕事ができるようになりました。どんなに忙しい時でも、休息することを心がけています。大学院時代は、無機材料の研究をしていたので、卒業後は材料メーカーに就職したいと思っていました。大学内の募集で日本ファインセラミックスを知ったのですが、他社と比べ研究グループがしっかりしているところに魅力を感じ、入社を決めました。大学で学んだことが活かされたと思ったのは、英語力です。英会話という自分の強みを生かし、海外の方が来た時に通訳をしたり、コミュニケーションが取れた時は、他の人と違う自分の強みを持って良かったと感じました。

### 記者紹介



東北工業大学3年 萩野 暁

取材をして特徴的だと感じたことは、若手社員が現場でも活躍していると思いました。会社のホームページより「モノづくりは人づくり」という言葉がありました。実際に原料を化学的に混合するため、社員一人ひとりが頭を動かしながら行うということを伺いました。入社から2年目で現場を管理することは、とても責任が大きいと思いますが、人間として会社として成長する鍵がここにあるのだと改めて感じさせられました。



東北芸術工科大学3年 菊池 みなと

私自身、ファインセラミックスは日常の中で触れる機会が少ないものだったため、新鮮な気持ちでお話をお聞きすることができました。はやぶさ2やアスナロ等の宇宙衛星用部品や、補助人工心臓等の医療機器部品を開発したと聞き、常に新しい製品を作り続けている会社だと知り、「ものづくりはひとづくり」というモットーを掲げており、創造力や挑戦力を生かしたコミュニケーションが必要不可欠だと気付きました。

製造業

# 蜂屋食品 株式会社

〒985-0011 塩釜市真山通3丁目3-27 TEL:022-364-8211 FAX:022-366-7605  
URL: www.hachiya-foods.co.jp



**代表者** 蜂屋 和彦  
代表取締役

**資本金** 1,000万円

**創立・設立** 1924年



## 食材そのものの味と旨味が詰まった 美味しい餃子の生産



蜂屋 和彦  
代表取締役

### 事業内容

安さに頼った商品にはない味に胸を張る商品を目指して

味に材料に生産方法、さまざまにこだわり抜いた餃子の生産をしています。餃子の生産工程は、午前中は肉を工場に挽き始めるところから、野菜の特徴に合わせたカットを従業員の手によって行うまでの具材準備をしています。午後には餃子の皮に包む成型作業をします。餃子は直営販売所に加え、ネット通販による販売も行います。餃子を用いたプロジェクトもあり、依頼を受けた地方の特産品を、餃子の具材として商品化するということもあります。他の地域・人々との交流を発展させつつ、地元の工場での工場祭りなどの地域活性化にも貢献しています。ホームページの掲載には、種類豊富な商品の案内はもちろん、国民的な年間行事に合わせた、餃子の活用法などの紹介もすることで、より親しみやすい商品になる工夫をしています。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	1名
2017年	0名
2018年	0名

### 求める人物像

人付き合いを重視しています

挨拶ができる人を求めています。人としての基本ですね。その上で、積極的にコミュニケーションをとれる人を求めています。というのも、蜂屋食品は、人との交流を大切にしているからです。第一に社員とお客様との交流です。「工場祭り」などのイベントは、商品の改良や、社員のモチベーションに繋げる上で重要です。第二に会社内での交流です。蜂屋食品は、社員同士が年齢や立場に関係なく、気軽に話せる環境づくりを心掛けています。その為に社内で交換日記をつけたり、懇親会を開いたりして環境づくりに努めています。仕事の話だけでなく、マイホームの話や家族の話など、プライベートな悩みも話せたら、リフレッシュができる上に、離職の防止にも繋がります。また餃子を作るに当たっては、衛生管理に気を遣わなければいけません。決められたことをしっかり守れる、真面目な人に入社してほしいですね。



### WISE 記者の 企業体験記

## 食品製造の現場に潜入！

私たちは、商品が作られる工場の見学をしてきました。普段から整理、整頓、清掃、清潔、しつけ、この5つを意識した「5S活動」を行っている蜂屋食品。お客様が食べる商品を製造する現場のため、5S活動を中心に、衛生管理を徹底して行っているそうです。私たちも清潔な状態で見学するために作業着を着用しました。

工場に入ってみると、2つの機械が目が留まりました。主に、小籠包や水餃子の製造に使われる包あん機と、さまざまな餃子の製造に使われる餃子成形機です。商品の成形は、この機械で行っているとのこと。大量生産であれば、製造の全ての行程を機械で行うのが一般的なのですが、蜂屋食品は、餃子の味の決め手となる具材の裁断は手作業で、生地生成と成型を機械で行っています。具材のシャキシャキとした歯ごたえは機械では生み出せず、手作業で切り方を工夫してこそ生まれるそうです。

また、地域との交流を意識的に取り組んでいるのも蜂屋食品の特徴です。力をいれている新商品の開発においても、ほとんどが地元の特産物を活かした商品だそうです。商品の味を知ってもらうために、社員がお客様の目の前で餃子を焼いて、食べることができる工場祭も行っています。いつも工場内で働く社員が、お客様と顔を合わせて交流する機会はないので、工場祭で自分たちが作ったものを食べたお客様の喜ぶ顔を見ることで、モチベーションアップにもなっているそうです。蜂屋食品は地域を盛り上げ、地域と共に成長していく会社だと思いました。



### 先輩の 声

#### お客様の感想が、仕事のモチベーションです



赤間 勇太さん  
製造部

2018年8月に入社し、工場での餃子の具材づくりを担当しています。肉と野菜を切って調味料を加え、混ぜるのが仕事です。

餃子は、調味料の量や混ぜる順番など、作り方が厳密に決まっています。少しのミスでも味が変わってしまうので、手順は厳守です。私は新人なので、仕事を正確に覚えるために、教わったことは必ずメモを取り、休み時間や勤務が終わった後に整理しています。「頭と体に叩き込む」が私のモットーです。

蜂屋食品では「工場祭り」を開催して、お客様に焼き立ての餃子を提供しています。自分が作った餃子を食べ、「おいしい」と言ってもらえるのが何よりの喜びです。普段は裏方でお客様と関わる機会がないので、イベントを通してお会いできるのは蜂屋食品で働く魅力です。食べる人の顔を思い浮かべながら、責任感と緊張感を持って、日々仕事に励んでいます。

将来の夢は、自分が考案した餃子をお客様に食べていただくことです。でも私は入社間もないので、できる仕事は多くありません。仕事を覚えて経験を積み、会社の役に立てるようになるのが、夢への第一歩だと思っています。

### 記者紹介



東北大学3年 菅野 雄哉

蜂屋食品の取材が決まり、ホームページを見たり餃子を買って食べたりと、餃子についてあれこれ考えるのは人生で初めてでした。「餃子だけでこんなに記事が書けるんだ」というのが率直な感想です。蜂屋食品の餃子は、無添加、手作り、地元の野菜など、こだわりが詰まっています。工場祭りでは、焼き立てを食べることもできます。皆さんも一度、足を運んではいかがでしょうか。



東北学院大学3年 工藤 弘貴

蜂屋食品はお客様に喜んでもらうために、一切妥協をしないと感じました。蜂屋社長は、具材に使う野菜にこだわるために野菜ソムリエの資格をとったそうです。その野菜の裁断は、食感をよくするために手作業で行っています。お客様が「また食べたい」と思うのは、細かいところまでこだわった商品だからだと思いました。



宮城学院女子大学1年 熊谷 未来

蜂屋食品さんの餃子は、手間を惜しまないからこそ出る自然な旨味が魅力だと思います。餃子を生産することに加えて、餃子を介しているいろいろな方々と交流の輪を広げていた事もとても印象的でした。ネット上で販売することで、多くの人に楽しんでもらえる機会を提供する一方、地元塩釜の工場の敷地内での工場祭りや直営販売所による販売で、地域住民の方との交流も大切にしています。他者との交流を大事にしようと思えました。

情報通信業

# 株式会社プロトソリューション仙台本社

〒984-0051 仙台市若林区新寺一丁目3-45 AI.Premium4F TEL:022-781-9047 FAX:022-292-7661  
URL: <https://www.protosolution.co.jp>

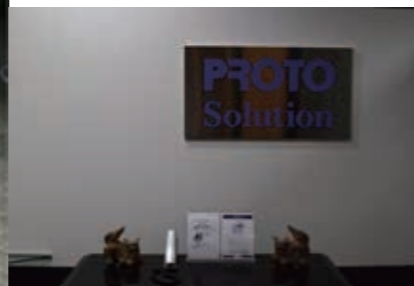


**代表者** 白木 享  
代表取締役社長

**資本金** 4億9000万円

**創立・設立** 2007年

**受賞歴** 2012年 ワーク・ライフ・バランス企業認定  
2015年 次世代認定マーク「くるみん」取得  
2018年 女性活躍推進企業「えるぼし」取得



WISE 記者の  
企業体験記

## 常にクリエイティブな発想を

私たちは、仙台本社の4階と7階のオフィスを見学しました。4階は、主にたくさんのデスクが並んでおり、エンジニアが作業する空間でした。エンジニアは真剣な面持ちで数台のパソコンに向かっており、パソコンの画面には難しそうなプログラミング言語が並んでいました。7階に行くと、会議スペースとラボスペースがありました。私たちが特に興味を持ったのは、取材を行った7階のラボスペースです。4階のオフィスの雰囲気とは少し違い、リラックスできるような空間となっていました。そこにはPepperが2体も設置してあったので、何に使うのだろうと質問してみると、「業務とは関係ないですが、ロボット開発に興味があると言ったら、開発設備として用意してもらいました。Pepperを自分たちでプログラミングをして楽しんでいる」とのことでした。社員の方は、常に身の回りのモノの仕組みに興味を持ち、実際に動かしてみるところから、自分たちの仕事への発想を得るといって、とてもクリエイティブな人達でした。さらに、壁がホワイトボードになっているのを発見しました。ミーティングや休憩中などに話している中で生まれたアイデアを書いたり、メモを書いたりする自由なスペースなのだそう。その他にも、いつも座って作業をすると疲れるという人のために、立って作業ができるような高さのあるデスクも設置されていて、至るところに働きやすさを工夫するプロトソリューションらしさを感じました。



## 仙台から誰もが知るサービスの提供を目指して



菊地 伸  
仙台本社統括  
ITインテグレーション部門  
執行役員

事業内容

### 日々新しい技術に挑戦

仙台本社では、ITインテグレーション事業としてWebシステムの開発やITインフラ・クラウドの構築を行っています。主な業務としては、自社で運営している中古車情報サイト「ゲー ネット」の運用・開発などを各拠点と共に行っています。ITインフラ構築では、サーバやネットワーク機器などの調達・設計・構築・MWの導入・設定、検証などを行っています。また、クラウドや仮想化環境の構築も提供をスタートいたしました。最近では、Webシステム開発やITインフラ構築だけでなくAIやロボット技術の開発研究なども取り組み始めていて、新たなサービスやソリューションの提供を目指しています。IT業界は技術の進歩がとても速く、数年経てばその技術は古いものとなってしまいます。日々の仕事をより効率化するためにITを駆使した解決策を提供し、これからもお客様の生活がより便利になるように目指してまいります。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	6名
2017年	3名
2018年	3名

求める人物像

### 世の中を変える情熱

仕事に対して情熱を持つ人を求めています。IT業界においても技術だけでなく、情熱を持つことはとても重要です。「こういうモノをつくりたい」「こういったモノで世の中を変えてみたい」というような情熱は、周りの人をも動かします。会社の中には様々な想いを持った人がいて、「こういうことをやりたい」という一人ひとりの想いを、議論し共鳴し合うことで、新しいアイデアが生まれます。このように意志があり発信できる情熱を持っている人と、東北や仙台から世界に向けてよりよいサービスを生み出していくためにも、一緒に仕事をしたいと思っています。また、周りの人に感謝の気持ちを持って仕事をする、周りの人を巻き込んでいく力のある人も、一緒に働きたいと思える人の要素です。これから生きていく上でも、仕事で何かを作るにしても、必ず人と関わりますし、技術だけがあってもいい仕事はできません。どこに行っても必要なことではありますが、感謝の気持ちを持つこと、周りを巻き込んでいく力がある人はとても魅力的ですね。



先輩の  
声

### IT業界の敷居を下げたい



大久保 一茂さん  
ソリューション開発部  
開発1課

今年で入社して3年目になります。業務内容としては、お客様がシステムで困ったことや、システムの問題を解決しています。また、お客様から寄せられた要望やレビューに応え、サービスを提供しています。日々、仕事内容が変わり大変なこともあります。多くの人が知っているサービスに携わっていることにやりがいを感じています。仕事をする上でのこだわりは、徹底的にやることです。学生の頃は自分が満足がいなくても納得していた時もありましたが、社会人になり業務に対して中途半端にするのではなく、先輩に聞くなどして限られた時間のなかで最善を尽くし、お客様に喜んでいただけるよう努めています。職場での人間関係もよく、難しい問題や分からないことは相談に乗ってもらえ、先輩や同僚と共にみんなで協力し解決しています。今後はIT業界の敷居を下げたいと考えています。「IT業界は難しそう」というイメージを持っている人達にも「興味をもって学習すれば大丈夫だよ」「自分で書いたプログラムが動いた時ってこんなに楽しいんだよ」ということを伝え、より多くの人にIT業界に興味を持ってもらいたいと思います。

記者紹介



宮城教育大学3年 高橋 実来

今回の取材で、私は自分の中で固定概念にとらわれるのはよくないと思いました。取材に行く前は、ITやシステムエンジニアという「理系」のイメージが強く、文系の私には向かない仕事だと勝手に決めつけていました。しかし、実は文系のエンジニアもいて、文系にも向いている仕事だと知り、固定概念を覆されました。この記事で私と同じような固定概念を持っている人にもシステムエンジニアに興味を持ってもらいたいと思います。



東北福祉大学3年 小畑 海人

オフィスに入る前は初めての取材ということで緊張していましたが、社員の方が気さくで社内の雰囲気も良く各々が自由に働きのびのびとしていました。社員の方の中には今とても仕事が楽しいと話す方もいて、働きやすい環境が整っている印象でした。IT業界は理系の学生はもてるん、文系の学生も活躍できる業界なのだ取材を通して知ることができました。日々、変化するIT業界だからこそ、やりがいがある仕事だと感じました。



東北学院大学2年 町中 大悟

システムエンジニアは理系の仕事だと思い込んでいましたが、文系出身の社員の方も多くいて、むしろ文系の方が向いていると仰っていたのでとても驚きました。また、社員さんが楽しそうなお仕事をされていたのが印象的で、働き方改革についても多くの取り組みをしてリモートワークなどの多様な働き方を推奨したりするなど、社員のことをとても考えてくれる企業であると実感しました。

建設業

# 株式会社 北洲

〒981-3341 富谷市成田9-2-2 TEL:022-348-3011 FAX:022-348-3932  
URL: https://www.hokushu.net/



**代表者** 村上 ひろみ  
代表取締役社長

**資本金** 1 億円

**創立・設立** 1958年

**受賞歴** 1993年 第1回環境・省エネルギー住宅賞「建設大臣賞」受賞



## 住み継がれて、風景になる



村上 ひろみ  
代表取締役社長

**事業内容**

### 次世代のスタンダードを切り拓く

北洲は、建築業に幅広く関わっている企業です。具体的には、新築住宅・リフォーム事業・不動産事業・建材業などです。どの事業にも手を抜くことなく、お客様のニーズに合った北洲独自の商品ブランドを作り上げています。新築住宅だけでも6つの建築スタイル別のシリーズ、リフォームで2つ、建材業で床、壁、断熱材がブランドとして確立できています。その中でも、床と断熱材は特出しています。床は糊、釘が不要ではめ込むだけで組み上げることができる構造の世界標準の床材も、日本で北洲だけが提案できるものもあります。これは、ベルギーで国際特許を取得した仕様で、傷、衝撃、火、熱、汚れに強い構造になっています。断熱材はドイツから火に強く、燃えない断熱システムを導入しています。事業所は、東北を中心に全国の主要な都市に展開しており、東京、大阪、福岡、北海道、埼玉と幅広いです。目指しているのは全国一の建築会社だそうです。

**採用情報**

※直近の採用人数

2016年	21名
2017年	12名
2018年	26名

**求める人物像**

### 人と真摯に向き合える人と真摯に向き合える人を

建築業という仕事は、人と真摯に向き合うことが必要になります。そのため、人と真摯に向き合えるということが求められます。その他にも世の中の流れに合わせて柔軟に適應できる、困難を乗り越えて成長できるということも求められます。現代はお客様のニーズが多様化しており、さまざまなお客様に対して真摯に向き合うということは、これからも長く愛されて行くため、北洲独自の魅力を伝えて行くということに関しても重要です。他にも、会社側から資金を出し、積極的に学びたいと思う社員をグロービスなどのビジネススクールに派遣したり参加させています。また、IT技術を使い、テレビ会議を行い社員の時間的、肉体的負担を減らしたり、社員旅行に行き、バリ、ドイツなどの建築物から学んだり、意欲的に会社が社員の成長の場を提供しています。



WISE 記者の  
企業体験記

## 地域を大事にする企業

11月3日に北洲本社である「北洲プラザ」で開催された「北洲グリーンフェスタ2018」のお手伝いをさせていただきました。北洲グリーンフェスタとは、2016年に富谷市の市制施行を記念してスタートしたイベントです。野菜や雑貨、インテリアなどの店が並んだマルシェや、ワークショップ、木工教室、フードコートなど多くの企画と出展があり、ご家族で楽しめるイベントになっていました。私たちは会場前の準備からの手伝いをさせていただきましたが、社員の方々がお互いに声を掛け合っていて、社員同士の仲がとても良いという印象を持ちました。ワークショップのお手伝いや、お客様への「いらっしゃいませ、こんにちは」という声掛け、案内など、社員の方々と同様に、スーツにグリーンのスカーフという服装で、お客様と直に接する機会を与えていただきました。お客様にはスタッフとして接していたので、終始身の引き締まる思いでした。今回、イベントの一環として富谷市のゆるキャラが来ていました。オープニングでは富谷高校の吹奏楽部が演奏し、マルシェには地元のフラワーショップや農家の方が出店するなど、地域に密着した内容になっていました。今後は「グリーンフェスタ」の名前を広めることも目指していくそうです。今回は、このようなイベントに来場者としてではなく、スタッフとして参加するという貴重な機会を与えていただき、北洲が地域を大事にしている企業であるということ、身を持って感じることができました。



先輩の  
声

### 将来は啓蒙活動を行い、住宅の技術を広めていけるような存在に



穴戸 拓也さん  
設計部

入社4年目で、主な仕事は構造設計です。お客様に安心・安全をお届けできる仕事をしています。この仕事のやりがいは、本店の社員として支店の社員を助けられることですかね。「誰に聞いたらいいかわからないけど、穴戸くんに聞いてみたよ」と言われた時にもやりがいを感じますね。働いて嬉しかったことは、「いつもありがとう」とお客様に言われたことです。その頃は研究所で働いていて、お客様の生活を管理して確かめる仕事を行っていました。私としては仕事の一環として行っている作業でしたが、とても嬉しく感じましたね。特に印象に残っている仕事は、日本建築学会でお客様の光熱費などを研究し、論文を発表したことです。若手として、出させてもらったことが印象深かったですね。私がここぞという時にすることは筋トレ・水泳・ランニングです。とにかく自分を追い込みます。その時に集中しすぎて記憶がないことがよくありますよ。あと大きな声で、サッカーの応援をするとストレスの発散にもなりますね。将来的にはいろんなところに行って啓蒙活動を行い、住宅の技術を広めていけるような存在になりたいと思っています。

記者紹介



東北学院大学2年 上杉 明日香

さまざまな面で、「新しいもの」を積極的に取り入れようとする姿勢に驚かされました。取り扱う商品や制度などにおいて、他より一歩先を進んでいます。企業体験としてお手伝いさせていただいた「グリーンフェスタ」では、地域に密着した、お客様を大事にする企業であることを実感することができました。北洲の皆様が作り上げる温かい社風、そして新しいよりよいものを生かしていこうとする企業づくりに大きな魅力を感じました。



東北工業大学2年 佐藤 有紗

今回取材をさせていただく中で、北洲という会社の「愛情」を感じることができました。まずは会社への「愛情」です。北洲では取材をさせていただいた社員の方、働いている社員の方々が生き生きと楽しそうに働いていました。2つ目は地元への「愛情」です。グリーンフェスタなどの地域貢献の場を作ったりと感謝の気持ちを忘れずに働いているところも見せていただくことができました。北洲に取材に行くことができて本当によかったです。



東北工業大学2年 佐藤 竜真

今回北洲取材して、村上社長が話していた自分たちの強み、魅力を作っていくということは自分が今後人生を送っていく上でも非常に大事な事だと思いました。これから就職活動などを行う際に自分の強み、魅力が無いと話にならない。周りと一緒に目立つことはできない。非常に大事な視点だと思ったので、これからこのWISE事業で得た経験をきっかけに自分の強み、魅力を作っていきたいと思っています。

医療、福祉

# 株式会社 manaby

〒983-0852 仙台市宮城野区榴ヶ岡1-6-30 ディーグラント仙台ビル7階 TEL:022-290-6026 FAX:022-355-9776  
URL: http://www.manaby.co.jp



**代表者** 岡崎 衛  
代表取締役社長

**資本金** 5,599万円 (資本準備金も含む)

**創立・設立** 2016年

**受賞歴** 2017年「東北アクセラター2017」共感賞受賞  
2018年「第21回七十七ニュービジネス助成金」受賞



## 自分らしく働ける社会を目指して



岡崎 衛  
代表取締役社長

### 事業内容

#### 働きたくても働けない人をゼロにするためのサービス

「働きたくても働けない人」の就労支援を行っているmanabyでは、独自のeラーニングシステムで、ITスキルを学ぶことができるので、家から出ることが困難な人でも在宅でスキルを身につけて、働くことが可能です。在宅という選択ができる、これがmanabyの最大の特徴です。その後、就労時のサポートから就労後の定着まで、しっかりとサポートをしているそうです。このようなサービスを障害のある人に提供してきたそうですが、障害がなくても自分らしく働けていない人がいると感じ、2018年の6月からは障害の有無に関係なくサービスを提供することを始めています。また、2018年の8月に「manabyCREATORS仙台」を立ち上げました。manabyCREATORS仙台では、webメディア作成を行います。障害のある人が、自分の興味のあること、世界観、知識を文章や音楽、絵などで表現し、発信していくそうです。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	6名
2017年	14名
2018年	14名

### 求める人物像

#### 自分を尊重できる人、ポリシーを持っている人を求めています

求める人材像は主に2つで、1つ目は、自分を尊重できる人です。manabyは「一人ひとりが自分らしく働ける社会をつくる」というミッションを掲げていますが、新卒、中途関係なく、フラットな対応をしています。組織を良くするには、社員の意見に共感するのは勿論、自分の意見を言うことも必要になってきますが、自信を持って発言するのは凄く勇気がいることだと思います。「尊重できる自分であるために努力している人」「自分を尊重できるように努力している人」。どちらも、頑張っているからこそ見えてくるので大切にしてほしいです。

2つ目は、ポリシーを持っている人です。採用試験では、今の能力だけではなく将来性を見ている。とはいえ、すぐにポリシーを見つけるのは難しいです。そこから逃げるのではなく、見つけるための行動はできるので、なかなか見つからない人は、身の回りの小さなことから挑戦してみると良いですね。そこで大切になってくるのは、自分と対話することです。社会人になっても自分と対話する力は必要なので、学生のうちから訓練をしておくとうれしいと思います。



### WISE 記者の 企業体験記

## 利用者同士のコミュニケーションで 自分らしさを見つける

毎週土曜日に開催しているレクリエーション「サタレク」のアイデアを考えました。サタレクは、manabyの利用者同士のコミュニケーションを図るために行っているものです。今回、私達が考えたのは「就活に役立つレクリエーション」。manabyの利用者が持っている力や、これから伸ばすべき力をふまえた上で、企画を考えました。その中で出たアイデアは季節のイベントに向けた飾りの制作や、短所を長所に変えるカルタ、自分史を作ってプレゼンするなど、1つの分野にとらわれず、幅広いアイデアを出し合うことができました。スタッフは「どんな企画をすれば利用者が集まってくれるか」を常に考えながら、企画を考えています。楽しいイベントはもちろん、ビジネスマナー、パソコンの基本操作やWord、Excel、プログラミングなど、習得したスキルを生かせる企画にもどんどん挑戦するよう努めているのだそうです。今後は、過去のmanabyの利用者で、現在は就業中のOB・OGとの交流会も開催する予定です。スキルを身に付けるだけでなく、利用者同士のコミュニケーションの中で自分の意見を発信したり、他人の意見を聞くことが自信や発見につながり、自分らしさを見つけることにもつながっていると感じました。知識を吸収するだけでなく、覚えたことを生かすことはレクリエーションの中でも実践できると強く思いました。



### 先輩の 声

#### 会社の雰囲気に着かれて入社しました



佐々木 萌さん

2018年の春に入社しました。本部の人事業務と利用者の支援員を担当しています。説明会の開催、求人媒体の選定、学生と接触できるイベントの開催、内定者のフォローなどが人事の仕事です。支援員としては、7人の利用者を受け持っていて、面談したり、訓練計画を作ったり、就職先を探したりしています。利用者とお話するときは、傾聴の姿勢が大切です。今後の生き方を考えるにあたって、悩みの背景を細かくヒヤリングしなければならないからです。相手の話を全て受け入れた上で、夢を実現するにはどうすればいいか、提案するよう心がけています。利用者がやりたいことを見つけたとき、「学んだことが生かされているよ」と言ってくれたときに、仕事のやりがいを感じます。

学生時代は、人材業界や福祉業界に興味を持っていました。manabyを知ったのは、「福祉レポリューション」というトークイベントがきっかけです。座談会に行ったときに、社員が「それ良いね」と相手を受け入れあう姿に着かれ、入社を決めました。説明会に参加したり、本社に足を運んだりして、人事以外の社員の様子を見ることが、就職活動では大切ですね。

### 記者紹介



東北芸術工科大学3年 菊池 みなと

就労移行支援というサービスは、取材に何うまで聞いたことがありませんでしたが、お話を聞きながら、利用者の方に必要なスキルを身に付けてもらうだけでなく「一人ひとりが自分らしく働ける社会をつくる」というミッションを掲げていることを知りました。世の中には障害がある人もいれば、社会に溶け込めず苦勞している人もいます。将来、どんな職に就いたとしても自分と相手を尊重し、自由で多様な社会をつくる一員になりたいです。



東北学院大学3年 工藤 弘貴

manabyで働く皆さんが、とても生き生きと仕事をしているのが印象的でした。「自分らしく働ける社会を目指す組織として、manabyは、社員が自分らしく働ける環境でなくてはならない」と岡崎社長は話してくださり、社員が自分らしく働いているからこそ、会社が活気づくのだと思いました。生き生きと働く社員の方たちの活気も、お客様がmanabyを利用してみたいと思う要因の一つだと感じました。



東北大学3年 菅野 雄哉

岡崎代表と佐々木さんは、口をそろえて「相手を尊重し受け入れること」が大切だと言いました。対して私は、周囲の人を尊重できているかどうか、自信を持っていません。普段の会話や話し合いなどで、相手の話を遮ったり、否定してしまったことは一度や二度ではないと思います。まだまだ傾聴力や寛容さが足りません。manabyの取材は、日頃の言動を振り返るきっかけになりました。

建設業

# 株式会社 ミヤツ

〒982-0816 仙台市太白区山田本町16番1号 TEL:022-245-0240 FAX:022-244-2057  
URL: http://www.mto-net.co.jp



**代表者** 佐藤 守  
代表取締役会長

**資本金** 3,200万円

**創立・設立** 1976年

**受賞歴** 2010年 宮城県活力朝礼コンテスト準優勝  
2018年 宮城県活力朝礼コンテスト第三位



## この世にないモノ・仕組みを創る！



佐藤 守  
代表取締役会長

**事業内容**

**お客様の要望にとことん寄り添います**

映像・音響機器、セキュリティシステム、鉄道向けの音響・監視システムを扱っています。これらすべてのものを設計から施工、修理まで一貫して担当します。液晶モニターを店内外に設置してCMを流し、店内のスピーカーからCMの音声と通常BGMを効果的に組み合わせることを提案して、集客効果を上げました。セキュリティシステムの例では、ガンリンスタンドの外周に赤外線センサーを取り付けることによって、不審者の通報や来店のお知らせという2つのメリットを実現。鉄道向けのシステムでは、車掌が乗降するお客様を監視するカメラやモニターの設置。駅周辺に住宅が多い地域では、駅郊外にスピーカーの音が漏れない特殊な装置を提案したそうです。お客様に対して、365日24時間、スピード対応でメンテナンスサービスを提供しているそうです。また、アトム電器という電化製品を扱う店舗も展開しています。

**採用情報**

※直近の採用人数

2016年	0名
2017年	1名
2018年	0名

**求める人物像**

**挨拶せよ、そして挑戦せよ**

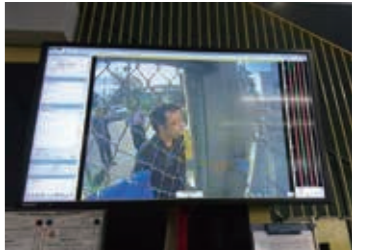
私たちは積極的に挨拶のできる人を高く評価しています。朝礼で挨拶の練習を行うほど重要度の高い項目です。なぜ私たちがそれほど挨拶に拘るのかというと、挨拶というのはビジネスを含め日常生活の中で最も基本的な動作であるからです。「挨拶なんて誰だってできる」と鼻で笑う人ほど、蓋を開けてみると案外、挨拶を疎かにしているものです。当たり前のことを当たり前に行える。どの会社でもそうした人物が求められると思いますが、それが最も顕著に現れるのが積極的な挨拶の有無ではないでしょうか。また、この他にも私たちは挑戦意欲のある人物を求めています。具体的には、防犯設備士など、当社が薦めている各資格の取得に前向きな方が最適です。資格の取得はその人の自信の向上、ひいては仕事のパフォーマンスの向上に繋がる、と考えています。そのため、各資格の取得に際して補助金制度を設け、従業員が資格取得に取り組みやすい環境を提供しています。



WISE 記者の  
企業体験記

## 監視カメラとモニターは、犯罪者をいち早く特定するための重要な素材

仙台空港内にある某企業での作業見学をさせていただきました。今回は、台風の影響で水が入ってしまった監視カメラの交換作業でした。交換と言っても、壊れた部分だけではなく、一つずつ部品を外し修理を行うそうです。部品だけの交換をしてしまうと、カメラを支える台座ごと落ちてしまう可能性があるため、「壊れた」という連絡が来るとすぐに予備の機械を取り付け、お客様と相談しながらご希望のカメラを設置します。作業時間は1時間から1時間30分程度で、お客様の時間の許す限り作業をします。二度と同じ故障をさせないという気持ちで修理をし、故障した所以外にもケーブルの劣化はないか、機械にひびがないかを確認します。来たときよりも綺麗にすることを意識しているため、作業中は機械をタオルで拭き、修理後にも点検に伺うそうです。「設置後は子どもを嫁がせたような気持ちになる」とおっしゃっていました。設置されている4つのカメラは24時間機能しており、夜中の真っ暗な状態になっても人が映るようになっています。カメラに装備されているスピーカーは、地震速報を受信し自動で放送されます。モニター右側のタイムバーにカメラに映る不審な人の動きを色で自動記録し、さらに大きく拡大して表示が可能です。写真だけでなく、動画としても残っているので、不審人物を見つけた場合はすぐに対応できます。モニターの写真や動画は、警察が犯罪者を特定するために必ず必要な素材です。カメラに映る自分の姿をモニターで見ましたが、想像以上に動画が鮮明で、細やかな動きをしていたのが印象的でした。



先輩の  
声

少人数だからこそその魅力



奥寺 俊輔さん  
ICT 事業部鉄道交通担当

ミヤツには現在、私を含め15人の従業員がおります。決して多くはない従業員数ですが、私にはここにこそミヤツの魅力が隠れているのだと感じています。例えば、日々行っている打ち合わせにおいても、少人数の利点は遺憾無く発揮されます。大人数で打ち合わせに臨むとなると、発言の機会に偏りが生じ、従業員一人ひとりの意見を聞くことが困難になりかねません。その点、少人数での打ち合わせでは従業員同士、活発な意見交換が実現できます。また、ひいては、日頃から従業員間で頻繁に意思疎通を行っているため、職場内には個人的な相談をしやすい雰囲気が醸し出されています。こうした職場だからこそ、私は学生の皆さんに積極的に質問や相談をする習慣を持ってもらいたいと思っています。自分一人では分からないこと、太刀打ちできないことがあれば、自ら率先して周りの人に尋ねてみましょう。加えて、尋ねた質問に対してアドバイスを頂いた際は、真摯な気持ちで受け止めることが大切です。たとえ納得の行かない応えが返ってきたとしても、一旦は素直に感謝の意を示しましょう。その後で実際に行動に移すべきかどうかを判断すればいいと思います。

記者紹介



東北芸術工科大学3年 菊池 みなと

「電気通信工事業」は、あまり馴染みがない業種だったため、どんな事業をしているか興味がありました。お話を聞くまでは技術が重視されるイメージでしたが、それよりも地域との密接な関係が重要だと知りました。取材中、社員の方々がおっしゃっていた「どうやったら、社会の人の役に立てるかを常に考えている」という言葉が印象に残っています。私も素直な心と挑戦心を忘れず、社会に少しでも影響を与える人を目指していきたいです。



東北学院大学2年 秋山 令

「我々はモノではなくコトを売る」。今回の取材で一番印象に残った言葉です。自社商品を大量に売るだけの方が経済的には効率が良いですが、それでは顧客が取り残されてしまいます。お客様に防犯の「意義」を理解していただくには、お客様との対話が欠かせない。そうした代表取締役の思いがワンストップサービスというミヤツの経営スタイルから垣間見られました。



尚網学院大学3年 武田 光

ミヤツさんへの取材が私にとってWISE初めての取材になりました。ミヤツさんの熱意のある取材対応と2人の協力によって取材を円滑に進めることができました。緊張していましたが、みなさんの気さくな対応のおかげで楽しい取材になりました。会社の歴史から現在、将来の展望を聞ける機会は人生でそう多くはないと思うので、貴重な体験になりました。ありがとうございました。

情報通信業

# 株式会社メルカリ

仙台市青葉区一番町  
URL: <https://about.mercari.com/>



**代表者** 山田 進太郎  
代表取締役会長兼CEO

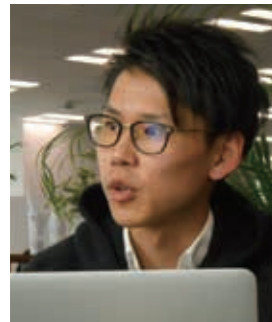
**資本金** 695億8,600万円

**創立・設立** 2013年

**受賞歴** 2016「日本ベンチャー大賞」においてグローバル展開賞（審査委員会特別賞）



## 新たな価値を生み出す 世界的なマーケットプレイスを創る



武山 智希  
CSグループ

### 事業内容

#### フリマアプリ「メルカリ」の裏側

仙台オフィスは、メルカリのカスタマーサービスの業務が中心で、自社で開発したツールを使って顧客対応しています。アプリ上での問い合わせに対応する業務の他に、新しい機能やさらなるサービス改善の考案もしているそうです。日々来る問い合わせのひとつに、取引キャンセルがあります。当時はスタッフが内容を確認し対応してたそうですが、もっとスムーズに対応できるようにとスタッフが提案。お客さま間で取引をキャンセルできる機能を追加することでキャンセルがスムーズに行えるようになり、問い合わせは減ってきているそうです。また、出品されている違反出品物の監視業務、取締りも行っています。社の規定や法令で既に違反とされている出品物や、一般的に出品には適さないと判断された物を取り下げたりと、東京オフィスの関連各部門と連携して、サービス改善や顧客満足度の向上に努めているとのこと。

### 求める人物像

#### ミッション・バリューに添った人、体現できる通した人

会社のバリューである「Go Bold（大胆にやろう）」、「All for One（すべては成功のために）」、や「Be Professional（プロフェッショナルであれ）」というバリューにマッチする人を求めています。常に大胆な挑戦ができるか、一人ひとりの能力がチームワークへ貢献できているか、仕事に熱意や責任感というオーナーシップを常に持っているかが重要です。資格や学歴はあまり重要視していません。しかし、「どんな考えやスキル、経験値をもった人で、どんなことをしてきたか」ということの方が圧倒的に大事です。過去にさまざまな経験をしてきた人の方が、知識や失敗や成功からの学び、自分の考えを持っています。その経験が仕事に役立つこともあるでしょう。また社内には役職、年次に関係なくフラットなためとてもコミュニケーションが取りやすく、仕事がしやすい環境です。そのため社員同士の関係が円滑になります。



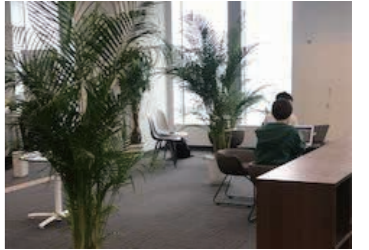
### WISE記者の 企業体験記

## 意見の飛び交う広大なオフィス

仙台にある、窓から見る景色が素晴らしいオフィス内を見学させていただきました。オフィス内はかなり広く感じ、多くの社員さんが勤務していました。また、執務エリア以外に約100人が入るイベントなどが開催できる休憩室兼イベントスペースも備えてありました。そして、オフィス内はそのほとんどが仕切られておらず、また、数人で行うミーティングスペースなども仕切りのない空間で行っていました。こうした環境は、社員同士の意見交換がしやすい環境で、社員の仕事に対する意欲を向上させるためのものなのかなと感じました。

社員同士でコミュニケーションをとる回数が多いのか、取材を初めて行く私たちにとってもお話を伺いやすく、いい雰囲気になっていました。私たちにとって初めての企業訪問であることから、堅いイメージがありましたが、それとは裏腹に、日常がそのまま職場に反映されているような柔らかいものでした。今回の取材では、3人の方に対応していただいたのですが、その際も社員の方とその上司の方がお互いフランクに会話をしてくれて、自身の意見を発言しやすい環境にあるのだらうと感じました。

こうした雰囲気は、社員にとってベストを尽くしやすい環境であり、また、その個々の力をまとめやすく、高度なサービスの提供に繋がっているのだなと感じました。



### 先輩の 声

#### 成長できる環境



武山 智希さん  
CSグループ

現在は、仙台オフィスのカスタマーサービスで仕事をしていて、主にお客さまからのお問い合わせへの対応、新規サービスの企画・展開などを行っています。社内においては、3か月に一回の達成会という名で、3か月ごとのMVPを決めるイベントなどがあり、社員で互いに協力したり競い合ったりと、いい関係が作れています。仕事の量自体は時期によって変動はあるものの、社内の雰囲気がよく、上司ともフランクに意見交換ができる職場であるため、楽しく仕事できています。また、社内にはランニング部やコーヒー部、イーグルス部などといった部活動が存在しており、仕事以外でも社員同士で趣味の共有などによる良い関係が作れています。こうした環境下で仕事ができることは、新しい機能の追加などを始めとし、提供しているサービスの質の向上に繋がっています。新規サービスがお客さまに満足していただけるものにまで達することができた時には、周囲の社員と協力しながら仕事を続けてきた努力が報われたと実感できました。こうした実感は、さらに多くのお客さまに満足いただけるようにと、社員との結束力と自身の向上心が磨かれ、仕事の励みになっています。

### 記者紹介



東北学院大学3年 菅原 郁仁

今回、取材としてお伺いさせていただくときには、初めてということもありかなりの緊張状態にありましたが、担当していただいた方が気さくに話しかけていただいたので、落ち着いて取材を行うことができました。自分たちの質問に時には楽しく、時には真剣な表情でお話いただき取材を行う楽しさを覚えました。今回、知らない世界を見れた貴重な体験をさせていただいたことに感謝したいです。



東北工業大学2年 澁谷 拳汰

メルカリは普段から利用しているアプリでもあり、取材がすごく楽しかったです。何より一番驚いたことはすごく「アットホーム」なオフィスだったことです。会社のオフィスはどうしても堅苦しい雰囲気になりがちですが、全くそうではありませんでした。社員の皆さんはとても楽しそうに仕事をしている印象でした。自由にリラックスした環境で仕事ができる。それは会社になくはならない理想の形だと思います。



宮城学院女子大学2年 齋藤 志穂

メルカリはよく利用しているアプリですが、仙台にメルカリのオフィスがあるとは知りませんでした。株式会社メルカリさんの独特な職場環境が印象に残っています。このような独特の職場環境がアプリの新しい機能を考える想像力の一助になっているのではないかと考えました。



製造業

# 株式会社 本山製作所

〒981-3697 黒川郡大衡村字亀岡 5-2 TEL:022-344-4511 FAX:022-344-4522  
URL: <http://www.motoyama-cp.co.jp/>



**代表者** 近藤 一晴  
代表取締役社長

**資本金** 3億円

**創立・設立** 1924年

**受賞歴** 1990年 科学技術長官賞  
2002年 (社)宮城労働基準協会会長賞  
2011年 中央職業能力開発協会会長表彰(技能検定事業部門)、大衡村功労者表彰

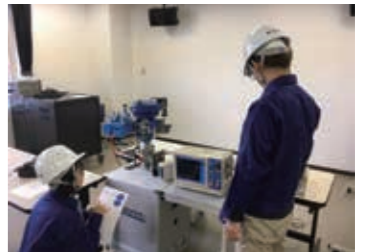


WISE 記者の  
企業体験記

## 高い技術力を感じた企業体験

まず、工場の中を見学すると、普段の生活ではなかなか見ることのできないような作業風景が目の前に広がっていました。溶接ラインでは、熟練の技能者が火花を散らしながら作業を行っており、初めて見る光景に心躍りました。組み立てラインを見てみると、製品の上に置いてある書類に、何やらびっしりと書いてありました。案内をしてくださった技術課の三浦さんによると、「お客様の要望によって数百種類もある仕様から検討し、形や大きさ、材料なども細部まで要望に応えるために細かく書いてある」ということで、バリエーションの多さに驚きました。

また、企業体験として調節弁の作動テストを実際に行わせていただきました。調節弁とは何か、知らない人もいることでしょう。読んで字の通り、出される信号に従い流体の流れる量を調節する機械で、普段私たちがあまり目にすることはありませんが、様々な工場に使われています。作動テストを実際に体験してみると、出された信号と、流体の量の誤差がとても小さいことに気づきました。最初に流体の量を調節してみると、一気に増やしたときや減らしたときの反動として、わずかなズレが生じることがあります。そのズレを小さくするために様々な原因を考え、調整を行います。すると、次に流体の量を調節したときには、ほとんどズレがなくなっていました。この結果を見て、調節弁には、国内でも世界でも評価されるほどのMOTOYAMAの高度な技術が用いられているのだということが分かりました。



## 時代の求める確かな技術を世界へ



丸谷 等  
取締役工場長

事業内容

見えない部品だからこそ、高い技術力でアフターケアまで万全に

本山製作所ではプラント用調節弁・安全弁といった流体制御機器を取り扱っており、主に石油化学・エネルギー市場をターゲットとしています。お客様のプラントの種類や用途により要求される性能が多様である為、受注を受けてから生産しています。プラントにおける流体条件を正確に把握し、最適な構造・材質・制御特性を持つ商品を選び、お客様に提供しています。本山製作所の製品は、家電や自動車とは違い、一般市民の人が日常生活で目にする機会はありません。しかし、最先端のインフラ事業でも本山製作所の製品が数多く使われており、実は社会において重要な役割を担っているのです。そのような製品が故障して、お客様や一般市民に影響を与えることがないように、国内8カ所にサービスセンターを配置し、アフターケアとして国内プラントの保全ニーズに応えられる高いメンテナンス技術を提供することを心がけています。

求める人物像

超えた壁の大きさだけ、自分も成長できる

当社で活躍しているのは、自ら積極的に働きかけ、周囲を巻き込むことができる意欲・活力を持つ人だと考えています。バルブが製造されプラントで使用されるまでには、クライアントはもちろん協力メーカーとの調整・交渉は欠かせません。多くの関係者を巻き込み、協力を経て最善の方法を導き出し、クライアントの期待に応えていくことを重視しています。また、こういったやりとりで重要になるのが、コミュニケーション能力です。会話のキャッチボールを通じて、相手の心を動かせる人を求めています。

最後に、現状に満足することのない姿勢を持つ人です。90年以上の歴史のある当社ですが、これまで存続してきたのは時代やクライアントのニーズ変化に合わせ、現状に満足することのない姿勢で新しいことに取り組んできた結果です。常に現状に満足せず、改善意欲を持っている人こそ社内外の高い期待に応えられると信じています。

高い期待を超え続けるのは難しいけれど、『超えた壁の大きさだけ、自分も成長できる』そんな自己成長を実感できる環境で、あなたも一緒に自分を高めていきませんか。

採用情報

※直近の採用人数

2016年	0名
2017年	0名
2018年	1名



先輩の  
声

### 責任感を持ち、不明点はすぐに解決することが大切



三浦 彰仁さん  
技術部調節弁技術課

私は、調節弁技術課に所属しており、お客様から調節弁の要望を受け取り、それを基にどのようなバルブが適正なのかということを検討する仕事をしています。調節弁は、多種多様な形状・サイズ・材料があり、どのような用途で使うのかによって要求もさまざまです。お客様の要求にあった製品を作るために、最適な仕様を検討します。検討するにあたって気をつけていることは、お客様はどのような製品を求めているのだろうか？ということを中心に考え、要求を見落とさないようにすることです。時には不明点が出る場合もある為、お客様に確認し、あいまいにせず、必ず解決するように心がけています。そうしなければ、お客様が要求する製品と、全く違う製品が出来てしまう危険性があるからです。自分が検討した仕様を基に生産が行われ、1度に数百台納入するような大きな案件の場合はお客様との技術的な窓口として対応する為、指示する、まとめる立場としての責任感を持って仕事に取り組んでいます。また、調節弁技術課に若い社員が増えてきており、世代交代が始まっています。ノウハウや技術が途切れないようしっかりと伝承しつつ、新しい技術へ積極的に挑戦していきたいです。

記者紹介



宮城教育大学3年 高橋 実来

製造業の工場に関わることは、今回が初めてでしたし、バルブを普段目にするのがないので知識はほとんどありませんでしたが、様々な方の緻密な部分にまでこだわりの努力の上に成り立つ産業だということが分かりました。この緻密さこそが日本、世界で活躍する企業たる所以なのだと感じ、私も社会人になったら自分の仕事にこだわりを持ち、地元へ貢献していきたいと強く思いました。



東北学院大学2年 町中 大悟

本山製作所の社員の方々には、プラント施設などの写真を見て自社製品が写っているとすぐ分かるそうです。そのぐらい、製品に対して愛情や情熱を持って仕事をしているのであるということが分かりました。また、社員の皆さんは、どの方も会社や仕事が好きであるように感じましたし、会社も社員を第一に考えて施設環境や制度等を整えているように思いました。これからも、宮城や日本のものづくりを盛り上げていきたいです。

宿泊業、飲食サービス業

# 株式会社 緑水亭

〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元上原27 TEL:022-397-3333 FAX:022-397-3331  
URL: http://www.ryokusuitei.co.jp



**代表者** 高橋 明浩  
代表取締役社長

**資本金** 2,000万円

**創立・設立** 1964年

**受賞歴** 2018年3月4日 仙台市食品衛生自主管理評価制度（仙台HACCP）※旅館第一号



WISE記者の  
企業体験記

## 宿泊が楽しくなるスポットがたくさん！

私たちは旅館内の見学をしてきました。広大な庭園を眺めることのできるロビーでは、日本の旅館では珍しく、月に数回コンサートが行われることがあり、のんびり音楽を楽しむことができます。他にも緑水亭のオリジナルビール「かがり火」や、カクテルが楽しめるビールカウンター、宴会場など、お客様が楽しめるスポットがさまざまありました。

特別室の見学もさせていただきました。特別室が9室もあるというのは、秋保温泉の旅館の中で一番の多さだそうです。この特別室の多さ、自然豊かな秋保の景色、警備のしやすさなどを評価され、1972年には、現在の天皇皇后両陛下が宿泊、さらに、2016年に行われたG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議でも宿泊の受け入れをしているといった実績があります。このように緑水亭には人をひきつけるたくさんの魅力があります。しかし、若女将は魅力のあるところだからこそ「人」の力を大切にしたいと言います。魅力のある場所でも、そこでお客様を受け入れる人によって旅館のイメージが変わってしまうからです。旅館で働く「人」が、利用して下さるお客様に心からのおもてなしをすることで輝き、活気ある旅館になるとお話してくれました。

今年創業50周年を迎えた緑水亭は、日本でも有数の観光地である秋保温泉で、昔からお客様に愛されてきました。しかし、現状に満足せず、よりいいおもてなしを提供するために、今もなお努力を続けている姿を見て、緑水亭がたくさんのお客様に選ばれる理由が分かりました。



## ようこそ 秋保の特等席へ



高橋 知子  
若女将

### 事業内容

#### ワクワク感と居心地のよさを提供する仕事

緑水亭の仕事はお客様が心地よく休める場の提供です。館本体の手入れや、食事の提供はもちろん、電話で予約を受け付けるところから、この仕事は始まります。一本の電話の中でどれだけ不安を解消し、期待を高めることができるかが鍵になります。そのために何の予定なのか、誰と訪れるのか、状況を把握することが大切です。その情報を従業員全体に伝え、迎え入れる体制を整えます。部屋や温泉を隅々まで綺麗にして、メニューにアレルギーのある食品が含まれていないかチェック。お客様が宿泊したら、また来たいと思っていただけるよう、心を込めて接客します。また、緑水亭ではさまざまなイベントを行っています。これらの企画、運営ももちろん大切な仕事です。館内ではミュージックバーやお月見といったお客様に楽しんでもらえるもの、館外では旅館の仕事を地域の子供たちに知ってもらうために、マナー講座や入浴体験などを行っています。

### 採用情報

※直近の採用人数

2016年	11名
2017年	17名
2018年	8名

### 求める人物像

#### 人を思う気持ちを大切にできる人

現在宿泊施設は、接客業とはひと言では言いえない職種になっています。受付や販売のような接客だけではなく、事務仕事や調理のようなバックヤードの仕事など、さまざまな仕事があるからです。お客様との関わりであったり、社員同士の関わりであったり、全ての仕事人が人と人が関わるものです。経営理念の中に、社員が楽しく力を合わせることで強い組織「チーム緑水亭」をつくと掲げているように、旅館はお客様に満足してもらうため、各セクションが団結するチーム力が問われる仕事だと思っています。そのため緑水亭では、人を思う気持ちを大切にできて、アンテナが高く、いろいろな人と情報を共有できる力を持った人材を求めています。また、夜中に地震がおきたり、天候の影響で来るはずのお客様が来られなくなったりと、旅館ではいつ何が起きるか分かりません。旅館は宿泊していただく方の命を預かる仕事であるため、何が起ってもお客様に安心感を与えられるような対応のできる「強い心、強い体、強い判断力」も必要ですね。



### 先輩の 声

#### お客様の気持ちに寄り添った対応を



堀内彩花さん  
予約係

主な仕事は予約係として、お客様からの宿泊予約の電話対応です。お客様が、緑水亭に訪れることが楽しみになるような電話対応を心掛けています。宿泊して喜んで帰っていただけるのと同じように、幸せな気持ちで電話を終えることができたと、喜んでくれるお客様がいるという事実が、やる気に繋がっています。入社きっかけは、大学時代にアルバイトでアパレルの仕事をしていて、接客でお客様に喜んでもらうことが嬉しく感じたことです。数ある接客業の中から旅館を選んだのは、命を預かる職業であり、ワンランク上の接客業が学べると思ったからです。電話対応をしていて、アレルギーについての質問や、ご高齢のお客様からのご要望など、命に関わる重大なことも相談されます。そこは大学時代の接客業と違うと感じるところですね。また、自分が良かれと思ってやっても、お客様はそこまで求めていないということがあります。自分が良いと思うことばかりを押し付けるだけでなく、お客様が何を求めているのか、しっかり最後まで聞いてから、自分には何ができるのかを落ち着いて考えるようにしています。料金とお部屋の案内はもちろん、どんな思いで緑水亭を選んでくれたのか電話で感じ取り、機械的な予約ではなく、お客様に気持ちに寄り添った対応をしたいです。

### 記者紹介



東北福祉大学4年 菅野 綾香

私にとって緑水亭は休日によく訪れる温泉なのですが、取材に参加しなければこれからは知らないままだったろうということがたくさんありました。まず、基本情報から知らないことばかりで、これからはもっと自分の周りのものに興味を持って過ごしたいと思いました。また、おもてなしの心や、秋保に対する気持ちの大きさは尊敬いたしました。これを機に、自分の地域への思いや気遣いの心を育てたいと思います。



東北学院大学3年 工藤 弘貴

若女将は「たくさんの人に来ていただけることが旅館の魅力であり、個性の違うさまざまな人に出会うことができるのは楽しいですよ」と仕事の魅力をお話してくれました。旅館内では宿泊客の方の笑顔がたくさん見ることができました。宿泊客の笑顔が絶えないのは一つひとつの出会いを大切に、お客様に満足してもらうために細やかなところまで気遣いを怠らないことを徹底している緑水亭だからこそではないかと思いました。



宮城学院女子大学1年 千葉 すみれ

若女将の秋保に対する強い思いが終始伝わってくる取材でした。秋保を知ってもらうことと、地域貢献をリンクさせた素敵な取り組みが涙山で驚きました。緑水亭の昔からある良さを生かしつつ、新しいイベントの企画もされていることを知り、秋保の魅力とトップレベルのおもてなしを間近で感じることができました。

# 学生紹介



秋場 海渡  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 3年

初めて「記者」というものを経験しました。実際に経験してみると、自分でアポイントを取ることから始まり、取材をして、記事を書いていくのですが、初めは緊張と不安で仕方がなかったのですが、何度か取材を行うと慣れてきて、自信をもって取材することができました。また、他大学の学生との交流を深めたり、同じ班の仲間と協力して取材や記事を書いたりすると全てが楽しかったです。私にとって初めてが沢山で良い経験になりました。私は山形県出身ですが、宮城県の企業のことを知る良い機会になりました。企業への取材に行った際には、社長さんに取材を行います、その企業のことだけでなく、これから先の人生のことなど人間性に関してとても勉強になりました。この経験は就職してからもしっかりと何かに活かすことができるのではないかと考えています。とても良い経験でした。ありがとうございました。

掲載ページ P16 (株式会社 グッドツリー) ,P4 (ALSOK 宮城 株式会社)



遠藤 陽香  
宮城学院女子大学  
学芸学部  
日本文学科 2年

今年は飲食業と介護職という二つの業種取材しました。サンワ・レストラン・クリエイツさんのお話を聞いて地元の食材を使うことで自分たちの地元にはこんな美味しい食材があると知りもっと地元が好きになることで地元が活性化しまさに食から地域を盛り上げることができると感じました。

また介護施設コスモスさん取材して壁についた手すりや飲み込みやすいように食事をペースト状にしたりと身体をサポートはもちろん、夏祭りなどのイベントを行うことで精神面でのサポートも充実していることがわかりました。

取材を通して話している時の言葉やしぐさがとても生き生きとしていてこの仕事が好きなんだと感じ、自分もやりたいことを仕事にして働きたいと思いました。

掲載ページ P6 (医療法人泉整形外科病院 介護老人保健施設コスモス) ,P20 (株式会社 サンワ・レストラン・クリエイツ)



秋山 令  
東北学院大学  
経済学部  
共生経済学科 2年

この度の学生記者活動は私の「グローバル企業こそ正義」という固定観念を打ち砕くものとなりました。

取材させていただいた企業の方は事業方針を説明なさる際に「縄張り」という言葉を多用されていました。その方曰く『自分たちは、いわゆる大企業のように全国津々浦々までサービスを提供することはできない。しかし、自分たちが受け持つ地域(=縄張り)については、その実情を誰よりもよく知っている』と。つまり、サービスの提供範囲を限定しているが故に、地域に密着した経営が可能なのです。「縄張り」内ではどこで、誰に、どのようなニーズが発生しているかを迅速に把握できるだけでなく、町内イベント等を通じて地域住民に名前を覚えてもらうこともできるといいます。

恐らくこれがローカルな企業の強みなのでしょう。一年前の私なら気づかなかった視点です。こうして新しい価値観を得られただけでも、学生記者活動は私にとって有意義な経験になりました。

掲載ページ P42 (株式会社 ミヤツ)



太田 杏梨  
宮城学院女子大学  
現代ビジネス学部  
現代ビジネス学科 1年

私は、何か新しいことに挑戦したいと思い、WISEに参加しました。アポ取り、取材、原稿作成等、初めての経験ばかりで戸惑うことも多々ありました。特に、取材時の企業の方々とのコミュニケーションが一番難しかったと感じます。一問一答形式とはいえ、回答をメモすることに集中してしまい、投げ掛けて質問することが出来ず、自分の未熟さ、コミュニケーション力の低さを痛感しました。限られた時間内でどれだけ深く対話出来るかが、原稿の面白さにも繋がるのだと感じました。これからは、活動や行事等に参加して多くの人と接し自分を高めていきたいです。

また、実際に見たり聞いたりして直接関わらないと得られないことが沢山あり、自分が気になったことはその場に向き調べようと思いました。

デスクの皆様、先輩方約1年間ありがとうございました。

掲載ページ P6 (医療法人泉整形外科病院 介護老人保健施設コスモス) ,P20 (株式会社 サンワ・レストラン・クリエイツ)



上杉 明日香  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 2年

WISEを知ったとき、とても面白そうな活動だと思いました。取材から記事の執筆まで学生が主体となって行い、学生が感じた地元企業の魅力を発信するという活動内容に興味を惹かれました。学生が企業の社長や社員の方々実際に会いし、取材させていただく機会はなかなかありません。必ず良い経験になると思い活動への参加を決めました。

活動の中では、企業への訪問や取材を通して、それぞれの企業が持つ魅力を直接感じることができました。その取材で得た情報や魅力を、読む人にわかりやすく伝えるような記事を書くことが本当に難しかったと感じています。自分で書いた文章の書き直し、言葉の選び直しを何度も繰り返したため、執筆に時間がかかりました。

反省点も多々ありますが、WISEに参加させていただいて良かったと思っています。この活動全体を通して多くの方々との関わりがあり、自分が考えていた以上に多くの経験を得ることができました。

掲載ページ P38 (株式会社 北洲) ,P18 (株式会社 グリーンハウザー)



奥村 朱子  
東北学院大学  
文学部  
英文学科 2年

WISEに参加しようと思った理由は、就職活動以外で企業に訪問し企業の方とお話をすることに魅力を感じたからです。しかし実際活動し始めると想像よりも大変でした。企業訪問も記事を書くのも確かに楽しかったのですが、日程調整が上手くいかず取材の日程が組めず1社しか取材できなかったのは少し悔しいです。

WISEに参加して学んだことは多くありますが特に相手に伝わる文の書き方についてです。取材先企業へのアポ取りをし、事前に質問を考えて取材に臨みましたが、取材後は不安がたかさん浮かびました。実際原稿を提出すると赤ペンだらけで返ってきてがっかりして次の原稿提出が遅れたりもしました。今までどれだけ自分本位な文章を書いていたのかと痛感した経験です。

最後に、取材先の企業の方々、デスクの皆様や班の皆さん、本当にありがとうございました。宮城の学生がWISEを読んで地元企業に少しでも興味を持つきっかけになれば幸いです。

掲載ページ P10 (株式会社 植松商会)



小畑 海人  
東北福祉大学  
総合マネジメント学部  
産業福祉マネジメント学科  
3年

私はこの活動を始めたきっかけは新しいことを始めたい、企業の方や他の大学の学生と関わりたいと思ったことです。しかし、取材する以前にスケジュールが合わず予定よりも取材日時が大幅に遅れてしまいました。早め早めの行動をするように促されていたにもかかわらずこのようになってしまったのは自分の責任であります。最後までやり遂げられたのはメンバーやWISEのスタッフの支えがあったからです。学生記者は未だ経験したことがなく不安なことばかりでしたが、取材をしてみると働いてる人の思いや熱意が直接肌で感じられたことは非常に貴重な時間でした。多くの働いてる人が日々、世の中を良くしようと頑張っているからこそ成り立っているのだと改めて実感しました。この活動を通して得たことを今後の人生に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

掲載ページ P36 (株式会社 プロトソリューション仙台本社)



菅野 雄哉  
東北大学  
文学部  
人文社会科学科 3年

昨年もWISEに参加して、今年は2年目でした。去年取材を1社経験して、上手くなったつもりでしたが、いざ社長と対面すると緊張してしまい、覚えたはずの名刺交換が上手くできなかったり、質問におかしな敬語が混ざったりと、小さな失敗の連続でした。今振り返ると、「もっと上手にできたのではないか」とか、「不愉快な思いをさせてしまったのではないだろうか」と心苦しくなります。さらに、文章を書くというのは予想以上に難しいものでした。適切な表現が思いつかない、つながりが悪い、ネタが足りず文字数を満たせない、などと苦しい思いをしてばかりだったからです。語彙の貧しさ、取材の力量不足を痛切に実感するとともに、物事は何度も経験してこそ上手くなれるのだ、と気づきました。

最後に、私の拙い取材に応じて下さった企業の方々、一緒に取材をしたメンバー、活動を裏で支えて下さったデスクの皆様、心から感謝申し上げます。

掲載ページ P8 (株式会社 岩沼精工), P40 (株式会社 manaby), P22 (株式会社 ジュー・シー・アイ), P34 (蜂屋食品 株式会社)



小原 洲斗  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科  
2年

学校の授業の一環で、WISEの活動に参加させていただきました。私は、今まで企業にインタビューをして、記事にするとということをしたことが無かったので、今回のインタビューは貴重な経験になりました。活動が始まった当初は、本当に自分が最後までやり遂げられるのか不安でした。WISEの活動と学校生活とサークル活動の両立が難しく同じ班の人やデスクの皆さんに色々ご迷惑をお掛けしましたが、記事が完成し無事にやり遂げることができました。また、記事の添削をしてくださったデスクの皆さんにはとても感謝しています。文章を書く時などで必要になるスキルをアドバイスしていただいたので今度文章を書く際に役立てていきたいと思っています。今回の活動を通じて自分自身が少し成長できたと思うので、学んだ事を将来に活かしていきたいです。本当にありがとうございました。

掲載ページ P12 (株式会社 エヌエスシー)



菊池 みなど  
東北芸術工科大学  
デザイン工学部  
企画構想学科学科 3年

「リクルートサイトでは分からない、企業の魅力が知りたい」  
私がWISEの活動に参加を決めた理由の1つです。大学3年生になり、就職活動が始まったと同時に、自分の将来と真剣に向き合うようになりました。企業研究や業界研究をする中で、調べるだけでなく、実際に働いている方々の姿を見たり、リアルな声を聞いてみたいという気持ちがより強くなったと思います。山形県から唯一の参加でしたが、自分らしく楽しみながら活動をしました。

今年度、私は5社の企業様取材させていただきましたが、その中で強く印象に残っていることがあります。それは、取材先の方々が自分の仕事に「責任」と「誇り」を持っていらっしゃるということです。

働く上で大切なことはもちろん、普段は触れることの出来ない、熱い想いを知ることが出来ました。また、取材で初めて耳にした仕事があり、世の中は多くの人と仕事で成り立っていることを、再確認しました。社会について視野を広げるきっかけにもなっていると感じています。

最後になりますが、学生記者の不慣れな取材に温かく対応してくださった企業様。お忙しい中、運営をしてくださったWISE事務局の皆様。一緒に取り組んだ学生記者の仲間から心から感謝します。本当にありがとうございました。

掲載ページ P42 (株式会社 ミヤツウ), P40 (株式会社 manaby), P20 (株式会社 サンワ・レストラン・クリエイツ), P32 (日本ファインセラミックス 株式会社), P22 (株式会社 ジュー・シー・アイ)



菅野 綾香  
東北福祉大学  
健康科学部  
医療経営管理学科 4年

今年度の活動は、私にとって二年目の活動でした。  
自分が教えなくてはならない立場になり改めて、一年間どのように学んできたか、どのように学ばなければならなかったかを考えさせられました。

指示通り動くだけでは、学びにつなげることはできません。その都度自分の考えをもったり、相手の指示の意図を考えたりと、頭を動かし学ぼうとしなければ、成長できる機会も少なく、記憶は薄れて、人に教えることはできないと痛感いたしました。

また昨年と同様に、身近な施設での仕事現場を見せて頂いて、「働く」ということをよりリアルに学ぶことができました。

私は来年度から社会人となりますがこの経験を生かして、二年目社員になるにはどのように学ぶか考え、そして自分が思う良い仕事を見つけ目指して、立派に社会の一員となれるように努力したいと考えます。

最後にお世話になった方々と、WISEの活動に感謝を述べさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

掲載ページ P48 (株式会社 緑水亭)



吉川 敏樹  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 3年

私は、何か就活に役立つことがしたいと思いWISEに参加しました。WISEの活動のおかげで、就活で大学時代の頑張ったことだけでなく、就職した後も役に立つことを多く学べました。例えば、言葉遣いやアポイントの取り方、相手の話の聞き方、メモの取り方、企業の下調べなど多くを学びました。また、企業の社長や取締役という上の立場の人とお話できることもWISEの魅力の一つです。WISEの活動ならではの貴重な体験だと思えます。

私自身、就職したい企業ははっきりと見つからないまま大学を過ごしてきましたが、WISEの活動を通して、就職を意識するようになり、やりたいことについて真剣に考えるようになりました。同じように就職について悩んでいる人にとって、WISEの記事が何かのきっかけになったら嬉しいです。宮城にどんな企業があるのか知ってもらうことはもちろん、「自分もWISEに参加したい」と思っていただけで幸いです。

掲載ページ P12 (株式会社 エヌエスシー)



**工藤 弘貴**  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 3年

私がWISEの活動を始めたのは、新しいことに挑戦することで何事も受け身の姿勢の自分を変えたいと思ったからです。企業の取材や記事の執筆は、普通に学生生活を送っていたら経験することはないWISEならではのものだと思います。この機会に挑戦することができて良かったです。

企業のことを深く知るために何を質問するべきか、読む人に伝わる文章にするためにはどうしたら良いかなど、企業の魅力を伝えるために自分に何が出来るかを常に考えて活動しました。

この活動は、私にとっては初めてのことでばかりで大変だとも思いました。しかし、経験したことのないことだからこそ、思い切って挑戦することができたと思っています。

WISE関係者の方々や班員の皆さんのおかげで、貴重な経験をする事ができました。本当にありがとうございました。

掲載ページ P12 (株式会社 エヌエスシー) ,P48 (株式会社 緑水亭) ,P40 (株式会社 manaby) ,P34 (蜂屋食品 株式会社)



**桜庭 沙友里**  
宮城学院女子大学  
現代ビジネス学部  
現代ビジネス学科 3年

就職活動が本格的に始まる前に、何か挑戦してみたいという思いからWISEに参加しました。貴重な経験や成長自分を感じることができました。

WISEに参加して得られた力は3つあります。1つ目は、他大学のメンバーとの活動を通じた協調性です。会って作業ができない中で、定期的に連絡を取り合いながら状況を共有し合う大切さが分かりました。2つ目は、企業様とのやり取りを通しての臨機応変に対応する力です。1回の取材だけでは、完璧な原稿は書けません。企業様と何度も連絡し、要望を聞き、臨機応変に対応しながら希望に叶う原稿に近づけることができました。3つ目は、原稿作成を通して、自分の情報を皆に伝えるような言葉に表す力です。自分が普段使っている言葉は誰もが正しく読み取るとは限りません。正しい情報を正しく伝えるために、執筆には大きな責任を持たなければならぬと分かりました。

WISEへの挑戦と得た力は今後の人生のためになる経験になりました。

掲載ページ P26 (株式会社 仙台進学プラザ) ,P14 (株式会社エルビダあおほ)



**熊谷 未来**  
宮城学院女子大学  
学芸学部  
日本文学科 1年

大学生になって大きな挑戦がWISEの参加でした。自分が知らなかった職業に触れ、企業それぞれの持つ魅力を感じられる取材活動は貴重な経験で、すごく楽しかったです。学生に企業の魅力を伝えるにはどんな質問をして、どこを取り上げるかなど記事について試行錯誤を繰り返しました。学生記者自ら企業と直接連絡を取り、取材許可を頂くのは緊張しますが、言葉の使い方など大変勉強になりました。企業と接する上で、同じグループの学生記者と協力しながら、みんなで制作を進める過程も大事だと思いました。仙台の地元企業を伝える目的のもと、文章力・話す・聞く力など、就職する上で身につけておきたい知識や経験がたくさんできたと実感しています。わからないことばかりで、不安な中でも活動できたのは記事の完成までご指導頂いたWISE関係者の皆さんや、取材先の「岩沼精工」「蜂屋食品」のみなさんご協力のおかげだと思います。この冊子が多くの学生の役に立ち、取材先の企業の方々に貢献できればと思います。本当にありがとうございました。

掲載ページ P8 (株式会社 岩沼精工) ,P34 (蜂屋食品 株式会社)



**佐藤 有紗**  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科  
2年

私が今回この活動に参加しようと思ったきっかけは就職活動にとっても不安があったためです。地元企業に就職する時のような企業があるのかを少しでも知りたいと思いましたし、就活時の面接のときも自信を持って臨めるのではないかと思いました。

取材先は前から少し興味があったハウスメーカーを選び、取材させていただきました。メールで企業と日程を合わせるという作業は自分の中でとても緊張するもので、毎回手に汗握りながらメールの文章を打っていました。何回も書き直して、企業に失礼のないような文章を考えるという作業は苦しみました。しかし、この作業は自分がこれから就活をする上でも利用できる力だと今は改めて思います。

このような機会をいただけて本当に感謝しています。この活動を通して、わたしの就職活動の一歩となっただけでなく、これから就職をする人たちにとってもこの冊子を通して力になれば嬉しいです。

掲載ページ P38 (株式会社 北洲) ,P18 (株式会社 グリーンハウザー)



**齋藤 志穂**  
宮城学院女子大学  
学芸学部  
心理行動科学科 2年

今後就職活動をするにあたって、WISEの活動は自分の糧になると考え参加を決めました。取材前の打ち合わせ場所を確保したり、取材先に行くまでの交通手段の手配をしたりすることで取材企業以外にも電話をする機会があり、電話をかけることに対して抵抗が少なくなりました。これに加え、言語活動において正しい敬語を使う意識も強くなりました。また、取材当日のタイムテーブルを作ることでスケジュール管理に自信がつけました。この活動を通して学んだことは、自分が動かない限り状況は変わらないということです。私はいつか誰かが自分の代わりにやってくれるのだと無意識に甘えていた部分がありました。しかし、アポイントから校正のやり取りまで自分が責任をもって最後まで取り組むことでこの甘えから脱却できたことが大きな収穫だったと思います。

掲載ページ P44 (株式会社 メルカリ) ,P30 (東京石灰工業 株式会社 丸森工場)



**佐藤 光**  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 3年

私の大学生活は家と学校の往復の他に、アルバイトという普通の生活で、校外の活動には一度も参加していませんでした。

そこで、就職活動をする前に宮城県内の企業について知りたいと思い、WISEの活動に参加しました。会社の社長と直接話をする機会はなかなかないので、良い経験になりました。

WISE学生記者の活動を通して沢山のことを学びました。

こんなに魅力的な企業が宮城県にもまだまだあるということがわかり、嬉しくなりました。短い期間での活動でしたが、収穫の多い1年間となりました。

掲載ページ P26 (株式会社 仙台進学プラザ) ,P14 (株式会社エルビダあおほ)



澤田 苑佳  
宮城大学  
事業構想学部  
デザイン情報学科 3年

私は、一步踏み出し成長したいという思いと記者の方に文章の添削をしていただけるという魅力から本活動に参加しました。実際、河北新報記者、取材先の方々、他大学の学生、仙台市役所職員、ラジオキャスターなど多くの方と関わる中でコミュニケーションのとり方などについて考える機会ができました。慣れない場に行くのは緊張しますが、活動前に比べ積極的に物事に取り組むことができるようになりました。また、記事に関して、良く書いていたとデスクの方が言うくださり、自信ができました。活動を通して一番感じたことは、1つのことを行う背景には多くの方の支えがあるということです。WISEの活動を行えたのは上記であげた方々のお力添えがあったことです。さらに、企業の取材を通して私たちの生活も多くの人の支えがあって成り立っていると感じました。活動を通し貴重な経験ができました。私たちの行った活動もこの冊子を見た方々のお力になれていたら嬉しいです。

掲載ページ P10 (株式会社 植松商会)



鈴木 果也  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科  
2年

私は、大学の講義の地域創生の一環として今回WISEの活動に参加させていただきました。これから大学3年生になり、実際にインターンシップや就職活動が始まるので今回の地元企業を取材して記事を作り、その魅力を発信するということは貴重な体験になりました。実際に企業にインタビューと記事作成をしたのですが人生の中で初めての体験だったので、取材の際はとても緊張してしまいました。記事作成に関しては、どのように文章を書けばいいのか分からず周りに迷惑をかけてしまい、添削されながらとても苦労した思い出があります。今回での出来事はこのWISEの活動に参加しなければ学生生活の中では絶対に経験できなかったと思います。記事作成で添削されながらも文章を書く技術が上がり、企業への取材での対応の仕方などを学び、自分を成長させてくれました。今回の活動でのことをこれからの就職活動へ活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

掲載ページ P8 (株式会社 岩沼精工)



菅原 郁仁  
東北学院大学  
経済学部  
共生社会経済学科 3年

WISEの活動に挑戦してみようと思ったのは、今後、社会に出て働こうとしている自身にとって、実際にお仕事をなさっている方々にお会いし、お話を伺うことが必要であると感じたからです。取材を行う際には、班のメンバーとともに意見交換をしながら、ホームページなどを調査し、質問事項をまとめ、臨みました。しかしながら、実際に取材を行うと社員の方々の想いや職場の雰囲気など、実際に取材を行うからこそ知ることのできる情報も多くあり、こうした情報を知る楽しさを感じるとともに、記事に書き出す難しさも感じました。こうした活動は、初めての事ばかりで戸惑うことが多かったのですが、今ではとてもやりがいを感じています。また、働く方々の実際の姿をより近くで拝見でき、働くことについて多くのことを学べた貴重な時間でした。今後は、ここでの経験をさまざまな方面で役立てていきたいと思っています。

掲載ページ P44 (株式会社 メルカリ)



高橋 実来  
宮城教育大学  
教育学部  
教育学科 3年

大学3年生になると同時に就職活動を控え、県内か県外かの選択について考えるようになりました。何かのきっかけになるかと思い、興味本位で応募しましたが、思い切った当時の自分を褒めたいと思う程、貴重な経験をすることができました。WISE学生記者として、業種は違うにしても、これからの東北、日本を盛り上げていく地元の企業を取材することができ、改めて地元の素晴らしさや、働く人の熱い思いを実感しました。この経験を通して、自分の中で、地元に残って働くことで貢献したいという思いが軸となり、現在の就職活動に繋がっています。また、今回のWISEの活動を通して関わった同じ班の2人には、感謝しかありません。大学も学部も学年も違う2人でしたが、助け合い、相談し合い、とてもよいチームワークで進めることができました。最後に、取材を快く受け入れてくださった企業様、デスクの皆様、関係者の方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

掲載ページ P36 (株式会社 プロトソリューション仙台本社) ,P46 (株式会社 本山製作所)



鈴木 綾華  
宮城大学  
事業構想学部  
事業計画学科学科 3年

私は元々文章を書くことが好きで、学生団体の活動でフリーペーパーの執筆活動をしていました。本格的な編集のお仕事に挑戦してみたいと思っていた中、プロの方に文章の添削していただけるという機会をいただき、挑戦しようと思いました。実際にプロジェクトがスタートすると、執筆以外にも大変な部分が出てきました。特に、メンバーとの意思疎通に課題を感じました。チームメンバーと話し合う中で、意見の衝突やスケジュールが合わない等の問題が発生し、序盤からリスクマネジメントをしっかりとっておく必要があったな、と反省しています。また、取材先で企業様からお聞きしたお話を100パーセントわかりやすい文章にするためには、表現に気を配ったり、時には言い換えをしたりする力が必要になり、何度も書き直しました。語彙力や表現力にも大変課題を感じました。それから、取材内容決め・アポ取り・取材・執筆 と、一連の流れを自分たちで動めなければならないことがとても難しかったです。本当に課題だらけで、自分たちだけでは記事を書き進めることができなかつたと思います。WISEのプロジェクトに関わってくださった関係者の皆様のお力添えがあったからこそ、私たちは活動することができました。自分がやりたいから、という気持ちだけでなく、誰かに支えられているという意思を忘れないでいたいと思います。この活動を通して、上記のような学びが得られた他、宮城県の魅力的な企業様を内側から知ることができました。私たちの執筆した記事が、誰かの目にとまることで、より多くの学生に宮城県の企業様の魅力が伝わればと思います。

掲載ページ P24 (スモリ工業 株式会社)



滝田 龍平  
東北学院大学  
文学部  
英文学科 2年

今回のWISEに参加して、たくさんのことを学ぶことができました。企業と電話やメールでやり取りすることは初めてだったので、特にアポイント取り、日程調整などに苦労しました。一連の活動を通して、コミュニケーション、事前準備の大切さを痛感しました。どのような質問をするかを書き出しただけで満足してしまい、記事の根幹となる企業の特徴、事業内容について深く掘り下げて質問することができませんでした。事前にその業界の現状、特色などを調べていれば話を広げることができたのですが、それを怠ったため、重要な質問に時間を割くことができず、記事にあまり関係のない質問に多くの時間を割いてしまいました。初めての取材で緊張を隠せないでいたのですが、企業の方が終始笑顔で、気さくに対応してくれたおかげで、楽しく取材することができました。今回取材させていただいた仙都魚類株式会社様の計らいで、セリの見学もすることができました。一つ一つ丁寧に説明していただき感謝しています。とてもいい経験になりました。最後に、仙都魚類株式会社様、WISE関係者の皆様、最後までご指導ありがとうございました。

掲載ページ P28 (仙都魚類 株式会社)



**武田 光**  
尚綱学院大学  
総合人間科学部  
現代社会学科 3年

WISEの活動に参加したきっかけは大学の教員の方に誘われたからでした。あまり深く考えないで参加したこの活動でしたが、終わってみて考えると参加して良かったと思える自分があります。もちろん企業の方へ取材した経験ありません。それでも、取材が成功したのは、デスクの方々が開いてくださった研修や仲間たちとの協力があったことだと思います。研修では、アポイントの取り方から取材の仕方まで教えていただきました。目上の方に対するマナーは今後の人生で絶対に役に立つことだと思います。

1番印象に残っているのは班のメンバーと連携して活動したことです。取材や執筆、校正まで班のメンバーに相談しながらやることで初めての活動の不安が解消されました。班のメンバーやヘルプで入ってくれた方には本当に感謝しています。

このWISEという情報誌に自分が関わったことと働く現場を間近に感じることができたことをこれからの人生に生かしていきたいと思っています。

掲載ページ P42 (株式会社 ミヤツウ) ,P22 (株式会社 ジェー・シー・アイ)



**萩野 暁**  
東北工業大学  
工学部  
情報通信工学科 3年

就職活動が始まり、「業界研究」のヒントになるかと軽い気持ちから始めました。「WISE」を通して、宮城県内には自分も知らない企業がたくさんあることを改めて感じました。その中でも、取材を通して「地元企業の魅力」を改めて知ることができました。取材した2社から「地元企業のすばらしさをもっと多くの若者に知ってほしい」という言葉が出てきました。原稿を執筆していく中で、宮城県内の学生が関東圏へ就職する割合が非常に多く、東北地方の地元就職率自体が年々減少しているという記事を見かけました。もっと、学生に企業を知って頂ければ、学生と企業がマッチングできるシステムがあれば、東北地方の人手不足は多少なりとも解決できるようになるのではないかと考えます。

WISEの活動は、社会に出てからも必ず必要なスキルです。理系、文系問わず、様々なことに挑戦してください。この度は、貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

掲載ページ P10 (株式会社 植松商会) ,P32 (日本ファインセラミックス 株式会社)



**鴫田 楓由稀**  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
コミュニケーション学科  
2年

私はWISEに参加するとなったときとても不安でした。他大学の学生とグループを組み複数の企業へ取材に行くこと知らされたときは驚きました。しかし、実際に活動してみるとともに協力し合い良い記事を書こうと話し合い、役割分担を決めて活動を進めていくにあたって、人見知りであった私でも積極的に取り組むことが出来たと思います。WISE活動を行っていく中で、私自身も知らなかった中小企業を知ることが出来ました。WISEで学べたことはたくさんあります。この先の将来大切になる「報告・連絡・相談」や、提出期限を守るということは改めて大切なんだと気づかされました。このWISEの冊子を見た学生が地元の中小企業へ関心を持ってもらえればうれしく思います。

掲載ページ P6 (医療法人泉整形外科病院 介護老人保健施設コスモス)



**町中 大悟**  
東北学院大学  
法学部  
法律学科 2年

私がWISEの活動に参加して感じたことは、当たり前なのかもしれませんが、働く人達は自分の仕事に「誇り」や「自信」を持っているということです。そして、何よりも自分の会社が好きなのだということです。なぜなら、私の中での社会人のイメージは、「仕事が嫌い」というものだったからです。しかし、取材先の企業の方々の仕事について誇らしげに、真剣に話している様子や、仕事体験や社内案内の時などに楽しそうに仕事を教えて頂いたことから、「社会人は仕事が嫌い」という勝手なイメージは何処かへ消え去りました。今回はIT系の企業と製造業の企業を取材しましたが、どちらの企業でも自社商品への愛情と仕事に対する情熱が伝わってきて、「ものをつくる」仕事の素晴らしさや魅力を感じました。

今回の活動を良いものに出来たのは、同じ班の先輩方やサポートして下さったスタッフの方々、そして取材先の企業の方々のご協力があったからです。特に、同じ班で活動することが出来た高橋実来さんと小畑海人さんには感謝しています。ありがとうございました！

掲載ページ P36 (株式会社 プロトソリューション仙台本社) ,P46 (株式会社 本山製作所)



**中村 凜音**  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
コミュニケーション学科  
2年

WISEの活動に参加し、何より原稿の編集に苦心しました。自分自身がいかにか文章構成に不慣れであったか、WISEの皆様と関わって思い知らされました。しかし、そのやりとりを繰り返す上でただ文章を構成するということだけでなく、考え方というものに対する見方が変わったと思います。地元企業の皆様がいかに魅力を形成し、発信していくかその努力や歴史一つ一つに意味があり、今があるのだと思います。自分もそういった素晴らしい活動に携われる一員として将来を見据えていきたいです。

WISEと携わり始めた頃から、こうして今まであつという間でした。時には大変だったことも少なからずありましたが確実に自分自身の成長が感じられます。

今回取材させていただいた企業やWISEの関係者の皆様、そして共に班活動を行ったお二方から得た知識経験を生かしこれから先、より精進したいと思います。本当にありがとうございました。

掲載ページ P26 (株式会社 仙台進学プラザ) ,P14 (株式会社エルピダあおば)



**佐々木 真優**  
宮城学院女子大学  
現代ビジネス学部  
現代ビジネス学科 3年

掲載ページ P16 (株式会社 グッドツリー) , P4 (ALSOK 宮城 株式会社)



**佐藤 竜真**  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科 2年

掲載ページ P38 (株式会社 北洲)



**澁谷 拳汰**  
東北工業大学  
ライフデザイン学部  
経営コミュニケーション学科 2年

掲載ページ P44 (株式会社 メルカリ) , P30 (東京石灰工業 株式会社 丸森工場)



**千葉 すみれ**  
宮城学院女子大学  
現代ビジネス学部  
現代ビジネス学科 1年

掲載ページ P48 (株式会社 緑水亭)



<b>鉱業、採石業、砂利採取業</b>	
東京石灰工業 株式会社 丸森工場	30
<b>建設業</b>	
株式会社 グリーンハウザー	18
株式会社 北洲	38
株式会社 ミヤツ	42
<b>製造業</b>	
株式会社 岩沼精工	8
日本ファインセラミックス 株式会社	32
蜂屋食品 株式会社	34
株式会社 本山製作所	46
<b>情報通信業</b>	
株式会社 エヌエスシー	12
株式会社 グッドツリー	16
株式会社 プロトソリューション仙台本社	36
株式会社 メルカリ	44
<b>卸売業、小売業</b>	
株式会社 植松商会	10
株式会社 エルピダあおば	14
株式会社 ジェー・シー・アイ	22
仙都魚類 株式会社	28
<b>不動産業、物品賃貸業</b>	
スモリ工業 株式会社	24
<b>宿泊業、飲食サービス業</b>	
株式会社 サンワ・レストラン・クリエイツ	20
株式会社 緑水亭	48
<b>教育、学習支援業</b>	
株式会社 仙台進学プラザ	26
<b>医療、福祉</b>	
医療法人泉整形外科病院 介護老人保健施設コスモス	6
株式会社 manaby	40
<b>その他サービス事業</b>	
ALSOK 宮城 株式会社	4

発行：仙台・地域人材定着推進実行委員会

発行日：平成31年3月29日

企画・編集・印刷：仙台印刷工業団地協同組合

※本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。



**WEB版**

<http://wise-sendai.jp>



**お問い合わせ**

**仙台・地域人材定着推進実行委員会事務局**

Fax. 022-288-7600 E-mail. wise-info@wise-sendai.jp

**運営体制**

仙台・地域人材定着推進実行委員会

仙台市経済局 株式会社河北新報社 仙台印刷工業団地協同組合  
地域協働教育推進機構